

南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

2023

岩手県洋野町教育委員会

南戸類家Ⅱ遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

例　　言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第8地割字南戸類家に所在する、南戸類家II遺跡の試掘調査成果を収録したものである。
2. 調査に係る費用は、事業主にご負担いただいた。事業主は次のとおりである。
洋野風力開発株式会社
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号は、IF78-0108である。
4. 本遺跡の試掘調査は、洋野町教育委員会が主体として実施したもので、株式会社四門が調査支援業務を行った。
調査責任者：千田政博（洋野町教育委員会）
調査員：春日貴明、山中慶太（株式会社四門）
5. 本書全体の編集・構成は、稲村晃嗣（株式会社四門）が行った。執筆については、第I・II・VI章2を千田、第V章を株式会社加速器分析研究所、第VI章1を春日、第VI章3を稲村、山中、第VII章を稲村、それ以外を松丸信治（株式会社四門）が担当した。
6. 第VII章南戸類家II遺跡の考古学的観察所見については、盛岡大学名誉教授熊谷常正氏に原稿を執筆していただいた。
7. 試料の分析・鑑定及び委託業務は、下記の方々・団体に依頼した。（敬称略）
放射性炭素年代測定：株式会社加速器分析研究所
検出礫の石質鑑定：花崗岩研究会
検出礫の加工痕等の確認：株式会社ラング
石器観察及び石質鑑定：でじたる工房
礫群の写真撮影：いろは写房（写真図版1～5）
基準点の測量：株式会社北山測量設計
8. 野外調査、資料収集及び本報告書の作成等に際して、下記の方々からご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
相原淳一、阿部昭典、稲野彰子、稲野裕介、岩田貴之、金子昭彦、高橋憲太郎
9. 試掘調査作業において、下記の方々にご協力をいただいた。（五十音順、敬称略）
相野美香、安藤セツ、大宮房子、久慈のぶ子、久慈ミヨ、久慈道美千子、黒坂誠吉、齋藤スミ子、桜庭邦子、下野正勝、大光登、田中セイ、玉澤ハナエ、畠川三重子、東山ウタ子、東山良子、萬谷忠夫、村山レイ、柳沢博文、有限会社薩摩建設
10. 室内整理、報告書作成にあたって、下記の方々にご協力をいただいた。（五十音順、敬称略）
石井夏樹、石倉绚、植松由里、小川麗子、木田いずみ、桐生多美子、金城真理子、黒木由佳、坂口美優、佐伯紀子、瀧谷貴子、杉本好二、高橋可南子、高橋美緒、田中雄大、田丸美紀、瀧石貴子、西村素子、早坂美由紀、原紹佳、増田美幸、松浦香里、松崎昇、横山香
11. 第II章洋野町内の遺跡については、令和4年(2022)4月時点での岩手県遺跡台帳に基づくものである。
12. 調査で得られた遺物・諸記録等については、洋野町教育委員会で保管・管理している。
13. 参考文献については文末に収めた。

目 次

例 言

目 次

凡 例

本 文

I. 試掘調査に至る経緯と遺跡の概要.....	3
1. 試掘調査に至る経緯.....	3
2. 遺跡の概要.....	3
II. 洋野町内の遺跡.....	4
III. 試掘調査の概要.....	23
1. トレンチの設定.....	23
2. 野外調査について.....	24
3. 室内整理について.....	24
IV. 遺跡の地形と土層序.....	25
V. 南戸類家II遺跡の自然科学分析.....	26
VI. 試掘調査の成果.....	30
1. 検出された遺構.....	30
2. 砂の石質について.....	38
3. ハンドボーリング調査.....	43
4. 検出された遺物.....	46
VII. 南戸類家II遺跡の考古学的観察所見.....	63
VIII. 調査のまとめ.....	65
写真図版.....	66

報告書抄録

図 版

第 1 図 遺跡位置図	1	第 15 図 縮 No. 40 ~ 72	40
第 2 図 遺跡範囲図	2	第 16 図 縮 No. 73 ~ 78	41
第 3 図 町内遺跡分布図	10	第 17 図 縮 No. 79 ~ 84	41
第 4 図 トレンチ配置図	23	第 18 図 縮 No. 85 ~ 88	42
第 5 図 深掘土層序	25	第 19 図 ハンドボーリング調査成果図	44
第 A 図 历年較正年代グラフ (cal BP、参考)	28	第 20 図 地中及び地表の縪の位置	45
第 B 図 历年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)	28	第 21 図 A トレンチ 検出土器	48
第 6 図 遺構配置図	29	第 22 図 A トレンチ 検出土器・土製品	49
第 7 図 A トレンチ	32	第 23 図 B トレンチ 検出土器・土製品	50
第 8 図 B トレンチ	33	第 24 図 C トレンチ 検出土器	51
第 9 図 C トレンチ (1)	34	第 25 図 C トレンチ 検出土器・土製品	52
第 10 国 C トレンチ (2)	35	第 26 国 D トレンチ 検出土器 (1)	52
第 11 国 C トレンチ SX30・41 土器検出図	36	第 27 国 D トレンチ 検出土器 (2)	53
第 12 国 D トレンチ	37	第 28 国 トレンチ外 検出土器	53
第 13 国 縮 No. 1 ~ 33	38	第 29 国 調査地内 検出土器・土製品	54
第 14 国 縮 No. 34 ~ 39	39		

表

第 1 表 町内の遺跡一覧 (1)	11	第 2 表 縪の観察表 (1)	38
第 1 表 町内の遺跡一覧 (2)	12	第 2 表 縪の観察表 (2)	39
第 1 表 町内の遺跡一覧 (3)	13	第 2 表 縪の観察表 (3)	40
第 1 表 町内の遺跡一覧 (4)	14	第 2 表 縪の観察表 (4)	41
第 1 表 町内の遺跡一覧 (5)	15	第 2 表 縪の観察表 (5)	41
第 1 表 町内の遺跡一覧 (6)	16	第 2 表 縪の観察表 (6)	42
第 1 表 町内の遺跡一覧 (7)	17	第 3 表 土器・土製品観察表 (1)	55
第 1 表 町内の遺跡一覧 (8)	18	第 3 表 土器・土製品観察表 (2)	56
第 1 表 町内の遺跡一覧 (9)	19	第 3 表 土器・土製品観察表 (3)	57
第 1 表 町内の遺跡一覧 (10)	20	第 3 表 土器・土製品観察表 (4)	58
第 1 表 町内の遺跡一覧 (11)	21	第 3 表 土器・土製品観察表 (5)	59
第 A 表 放射性炭素年代測定結果①	27	第 4 表 石器・石製品観察表 (1)	60
第 B 表 放射性炭素年代測定結果②	27	第 4 表 石器・石製品観察表 (2)	61
第 C 表 放射性炭素年代測定結果③	27	第 4 表 石器・石製品観察表 (3)	62

写 真 図 版

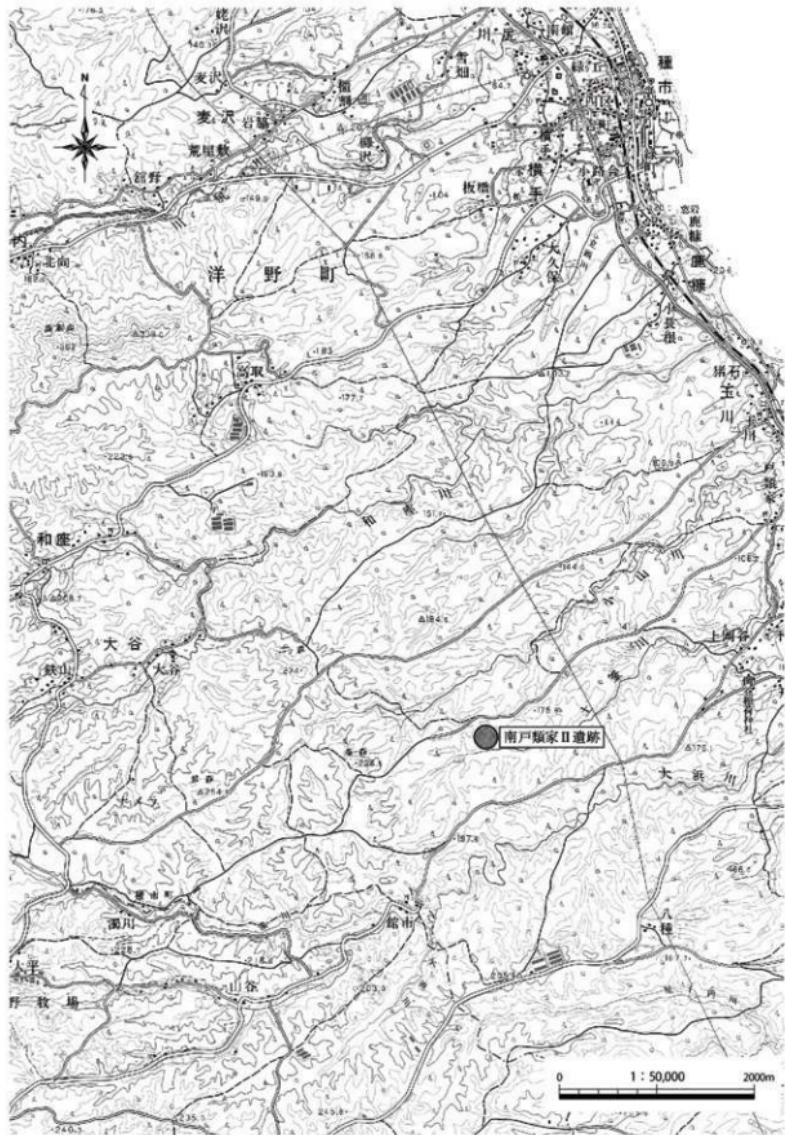
写真図版 A 分析対象土器	27	写真図版 13 C トレンチ・トレンチ外	78
写真図版 1 SX23・38・39	66	写真図版 14 C トレンチ・D トレンチ・ トレンチ外	79
写真図版 2 SX16	67	写真図版 15 A トレンチ 検出土器	80
写真図版 3 SX23	68	写真図版 16 A・B トレンチ 検出土器・土製品	81
写真図版 4 SX23・38・39	69	写真図版 17 C トレンチ 検出土器・土製品	82
写真図版 5 SX38・39	70	写真図版 18 D トレンチ 検出土器	83
写真図版 6 調査地遠景・調査地近景	71	写真図版 19 トレンチ外・調査地内 検出土器・ 土製品	84
写真図版 7 トレンチ全景	72	写真図版 20 A・B トレンチ 検出土器	85
写真図版 8 トレンチ近景	73	写真図版 21 C・D トレンチ 検出土器	86
写真図版 9 深掘土層序・A トレンチ	74	写真図版 22 D トレンチ・トレンチ外・ 調査地内検出 表面採集石器	87
写真図版 10 B トレンチ	75		
写真図版 11 B トレンチ・トレンチ外	76		
写真図版 12 C トレンチ	77		

凡　例

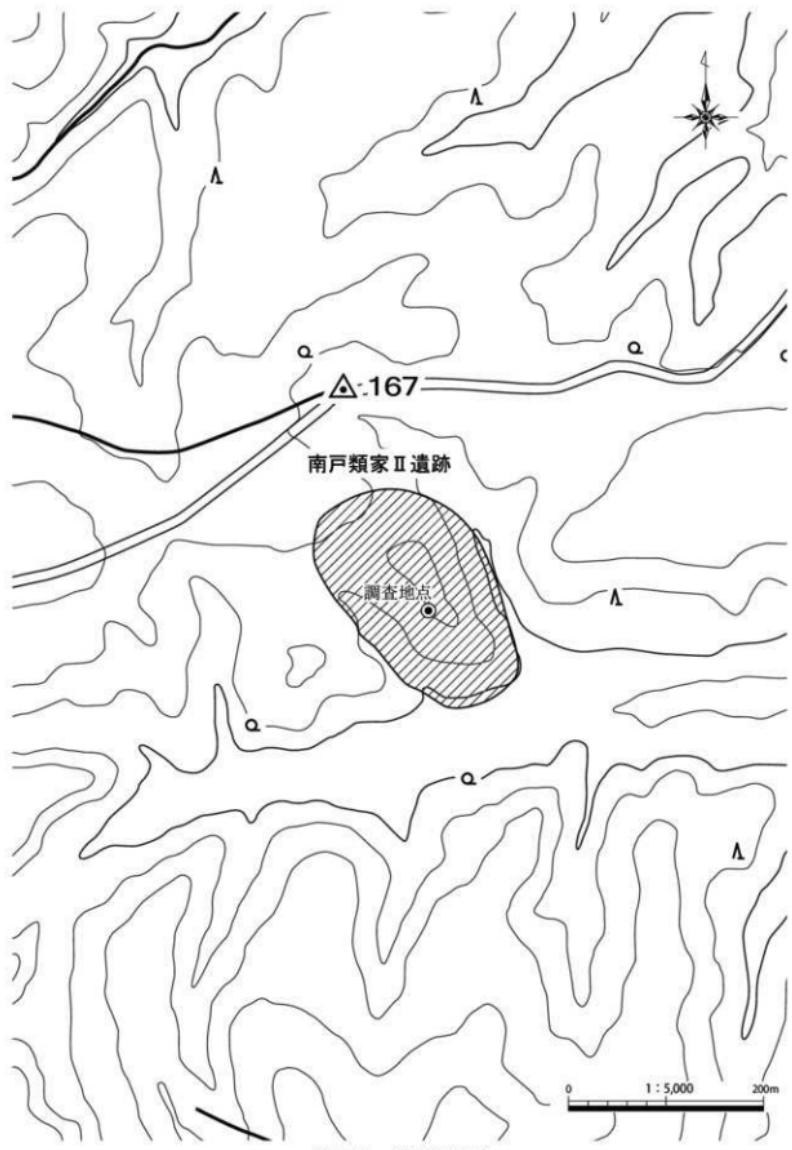
1. 第1図遺跡位置図・第3図町内遺跡分布図は、国土地理院発行の50,000分の1の地形図を複写し使用した。
2. 第2図遺跡範囲図・第20図地中及び地表の様の位置は、岩手県遺跡情報検索システム(令和元年度データ)所収の5,000分の1の地形図を複写し使用した。
3. 第4図トレンチ配置図の縮尺は1/1,000、第6図遺構配置図は1/500、第7～10・12図トレンチ平面図は1/150、第11図土器検出図は1/20、第13～18図縦断面図は1/80で掲載した。
4. 本報告書で使用する遺構表示記号は、下記のとおりである。

SX: 性格不明遺構
5. 本報告書に収載した遺構実測図に付した座標・方位は、国家座標第X系による座標値及び座標北を示す。
6. 遺物図版の縮尺は、土器・土製品を1/3とした。また、遺物写真図版の縮尺は、土器・土製品を1/3、石器・石製品を1/4とした。一部縮尺の異なる遺物については図中に指示した。
7. 遺構写真図版は、縮尺不定である。
8. 遺構図版の凡例は、以下のとおりである。

◆ 炭化物  焼土



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡範囲図

I. 試掘調査に至る経緯と遺跡の概要

1. 試掘調査に至る経緯

試掘調査は、洋野風力開発株式会社による風力発電事業に伴い実施されたものである。事業計画では洋野町内の31箇所に風車及び変電所を建設するもので、地形等の状況から全ての建設予定地において埋蔵文化財確認試掘調査が必要であることから、令和元年度から試掘調査に着手した。試掘調査は各風車建設工事箇所の7,000m²を対象に行ったもので、令和3年度までに第1次から第7次試掘調査を実施し、令和元年度は13箇所、令和2年度は12箇所、令和3年度は8箇所の試掘調査が行われた。

当初3号機建設予定地として実施された試掘調査(令和元年度第1次試掘調査)において、新規発見の遺跡(南玉川II遺跡)となったことから、事業者が新たな用地を新3号機建設予定地と選定し、試掘調査が行われた結果(令和3年度第6次試掘調査)、南戸類家II遺跡の所在が明らかとなった。

詳細については、下記文献に記載している。

洋野町教育委員会 2021『洋野町内試掘調査報告書(2019年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第10集

洋野町教育委員会 2022『洋野町内試掘調査報告書(2020年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第12集

洋野町教育委員会 2023『洋野町内試掘調査報告書(2021年度調査)』洋野町埋蔵文化財調査報告書第14集

2. 遺跡の概要

南戸類家II遺跡は、洋野町種市第8地割字南戸類家地内に所在する。JR八戸線種市駅から南へ7km、宿戸漁港から南西へ5km、北緯40°20'59"、東経141°41'59"を中心位置し、標高は153m～168mである。前述のとおり未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、風力発電事業に伴い実施された埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の西500mの位置に西戸類家Ⅳ遺跡が所在する。同遺跡は令和3年度に発掘調査が実施され、溝状土坑が検出された。また、本遺跡の西2.5kmの位置に松ヶ沢I遺跡が所在する。同遺跡は、平成28年度から30年度にかけて太陽光発電事業に伴う埋蔵文化財確認試掘調査が行われた。試掘調査面積は260,000m²で、検出された遺構には溝状土坑、埋設土器、焼土遺構がある。遺物は縄文時代後期を中心とした土器、石器、石製品などが出土した。本遺跡と同じ時期に所在していた可能性がある遺跡である。

II. 洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、令和4年(2022)4月現在、岩手県遺跡台帳に251遺跡が登録されている。平成23年(2011)以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に伴う試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成16年度(2004)の角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢)地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一氏により昭和30年(1955)から昭和136年(1961)にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成25年度(2013)までの調査事例は数件にとどまっていた。平成26年度(2014)以降、三陸沿岸道路建設事業等に伴う発掘調査により調査事例が急激に増加したもの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡として、中野地区の尺沢遺跡(222)が登録されている。同遺跡は令和元年度(2019)、久慈地区汚泥再生処理センター建設事業に伴う洋野町教育委員会による発掘調査で、ナイフ形石器が出土している。その他にも『角川日本地名大辞典3 岩手県』には、"鉄山遺跡"、"有家遺跡"と未登録遺跡の記載があり、いずれも高館火山灰層最上部から旧石器が発見されたとあるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は、全体の7割以上を占める。草創期の遺跡として鹿糠浜I遺跡(198)、板橋II遺跡(221)があり、いずれも爪形文土器が出土している。板橋II遺跡では、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(以下岩手県埋蔵文化財センターに略称する)による令和元年度(2019)の発掘調査において出土したものである。爪形文が矢羽根状に並ぶことから、八戸市黄壁遺跡で出土した爪形文土器に近いものとみられる。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡(20)、大宮II遺跡(47)、大宮I遺跡(48)、宿戸遺跡(199)、中野城内遺跡(203)、尺沢遺跡(222)などがある。旧石器が出土した尺沢遺跡では、日計式の押型文土器が出土し、同時期とみられる石器も出土している。また、岩手県埋蔵文化財センターによる平成6年度(1994)のゴッソー遺跡発掘調査では日計式土器、魚骨回転文土器が出土している。

貝殻文の土器が出土した事例は古く、昭和36年(1961)の草間氏による大宮遺跡の発掘調査時に出土したものが、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器と報告がある。宿戸遺跡(199)では、岩手県埋蔵文化財センターによる平成28年度から30年度(2016~2018)の発掘調査で、早期中葉から前期前葉の堅穴住居跡が多数検出され、白浜式から寺の沢式までの土器が多く出土した。白浜式土器は中野城内遺跡(203)の発掘調査でも出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡(20)、上のマッカ遺跡(43)、北ノ沢I遺跡(163)、鹿糠浜I遺跡(198)、宿戸遺跡(199)、小田ノ沢I遺跡(200)、田ノ端II遺跡(209)などがある。ゴッソー遺跡では、平成6年度(1994)の発掘調査で、前期初頭のコンバス文土器や押型文土器が出土している。鹿糠浜I遺跡では、岩手県埋蔵文化財センターによる平成29年度・30年度(2017~2018)の発掘調査で、前期初頭から前葉にかけての土器が多量に出土した。また、北ノ沢I遺跡の発掘調査では、円筒下唇d2式から上唇b式にかけての土器の捨て場であることが確認された。

中期の遺跡として、千敷平遺跡(4)、ゴッソー遺跡(20)、上のマッカ遺跡(43)、北ノ沢I遺跡(163)などがある。平成27年度(2015)洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の発掘調査では、中期初頭の堅穴住居跡が1棟発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で出土した。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚乳が検出されている。

後期の遺跡として、平内II遺跡(65)、上水沢II遺跡(92)、西平内I遺跡(185)、南川尻遺跡(194)、サンニヤI遺跡(195)、北鹿練遺跡(196)、下向I遺跡(202)、続石遺跡(213)、サンニヤIII遺跡(218)などがある。町内では、縄文時代後期の遺跡が最も多く、溝状土坑(陥し穴状遺構)と後期前葉の土器が出土する遺跡が多数を占

める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11年度(1999)から平成25年度(2013)の間、延べ6箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられる。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度(2000)の岩手県埋蔵文化財センターによる発掘調査で、後期前葉から後葉の堅穴住居跡が11棟発見された。

西平内Ⅰ遺跡(185)では、平成26年度・27年度(2014・2015)の三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において、集石群5基、弧状の石列1基、整地層2枚、掘立柱建物跡5棟、堅穴住居跡5棟、堅穴状遺構1基の他、埋設土器、焼土遺構、炉跡などが発見された。その後、令和元年度(2019)の洋野町教育委員会によるトレンチ発掘調査で、弧状の石列は環状列石であることが明らかになった。同遺跡は平成30年(2018)に町史跡に指定されている。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する堅穴住居跡が検出された遺跡は、上のマッカ遺跡(43)、西平内Ⅰ遺跡(185)、南川尻遺跡(194)、サンニヤⅠ遺跡(195)、北鹿糠遺跡(196)、鹿糠浜Ⅱ遺跡(197)、鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)、宿戸遺跡(199)、小田ノ沢Ⅰ遺跡(200)、南鹿糠Ⅰ遺跡(206)、北玉川Ⅰ遺跡(208)、板橋Ⅱ遺跡(221)があり、ほとんどが前葉のものである。宿戸遺跡では前葉の他に中葉・後葉のものも検出されており、南川尻遺跡は後葉のみである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡(21)、大平遺跡(32)、ニサクドウ遺跡(58)、戸類家遺跡(61)、田ノ沢遺跡(63)などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度(1961)、岩手県遺跡台帳作成調査において、太平洋戦争時間帯の際には多数の土器が出土し、その後植林はされたが包含層は良好で重要な遺跡との報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年(1957)に慶應義塾大学江坂輝彌氏による発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土し、現在、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年(1932)には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島祿郎氏が旧種市町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木貝塚(37)の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚(33)、八木貝塚(37)、小子内貝塚(40)、黒マッカ貝塚(41)がある。ホックリ貝塚では、洋野町の玉沢重作氏により岩手県で初めて縄文時代の製塙土器が発見された。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年(1949)に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塙遺跡であつた可能性がある。このほか縄文時代の製塙土器は、ゴッソー遺跡(20)の平成12年度(2000)岩手県埋蔵文化財センターによる発掘調査でコンテナ約1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡(21)で採集された縄文時代の製塙土器が多数収蔵されている。また、平成16年度(2004)の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡(182)より製塙土器が縄文晩期の土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塙を行った遺跡であることも考えられる。製塙土器は、鹿糠浜Ⅰ遺跡(198)の発掘調査でも出土している。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡(32)、大宮Ⅱ遺跡(47)、大宮Ⅰ遺跡(48)、平内Ⅱ遺跡(65)、上水沢Ⅱ遺跡(92)、北玉川Ⅰ遺跡(208)などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度(2013)の発掘調査で弥生時代前期後葉の堅穴住居跡が2棟検出されている。北玉川Ⅰ遺跡の発掘調査では、中期後半の堅穴住居跡が4棟検出された。上水沢Ⅱ遺跡の発掘調査では弥生時代後期の堅穴住居跡が1棟検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。

古墳時代の遺跡については、袖山遺跡(38)において、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品も玉沢重作氏により発見されたもので、長さ42cm、最大幅1.5cm、厚さは最大で4mm、重さは3.6g、石質は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2mmの穿孔があり、表面は錫が表現されている。形状か

ら5世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年(1953)に東北大伊東信雄氏が東北地方の石製模造品の集成を発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。

古代の遺跡として、城内遺跡(11)、ニサクドウ遺跡(58)、二十一平遺跡(69)、八森遺跡(73)、鹿鳴浜II遺跡(197)、サンニヤII遺跡(205)、館野遺跡(207)などがある。サンニヤII遺跡では、平成26年度・27年度(2014・2015)の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の堅穴住居跡が3棟検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩手県埋蔵文化財センターにより平成28年度(2016)に発掘調査が行われた八森遺跡でも8世紀代の堅穴住居跡が1棟検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、瓶、壺が出土している。また、草間氏の『種市の歴史(原始-中世)種市町諸遺跡の調査報告』によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器壺が出土している。

なお、上のマッカ遺跡(43)の発掘調査において、土師器と製塙土器を伴う堅穴建物跡が検出されている。また、床面からは2基の炉跡が検出されており、土師器の年代から10世紀後半から11世紀の製塙工房とみられる。

平安時代の製塙土器は、二十一平遺跡(69)でも出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機での掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度(2003)に新規登録された。製塙土器、土製支脚が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採集されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塙を行った可能性が高いが、保存状況は重機での掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、駒木野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集された製塙土器もある。なお、古代の製塙土器は海岸から6.2kmの館野遺跡(207)でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塙土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塙遺跡の発見や製塙土器の資料の増加が見込まれる。

主な中世の遺跡として、城館跡が27遺跡登録されている。城館の分布調査が昭和59年(1984)に岩手県教育委員会により行われているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市民の居城である種市城跡が所在する。種市民は中世から近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏(後の盛岡南部氏)の家臣である。『南部藩参考諸家系図』(以後系図)によれば、種市中務(実名不詳)が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村(軽米町)並びに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴繼の股肱の臣として中務が久慈備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直(初代盛岡藩主)から種市村並びに傍村に600石を賜ったとある。『聞老遺事』によると、天正19年(1591)九戸政変の際に、信直方に属し18人の部下と鉄砲3挺、弓3張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年(1600)の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏(後の遠野南部氏)18代八戸政栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大坂夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年(1649)に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年(1587)に初代盛岡藩主信直から閉伊口村(久慈市)を賜り住んでいたが、天正17年(1589)に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡(16)と非常に立てこもったとされる山城の種市城跡(17)が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡には現在でも馬

場屋敷、的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年(1627)に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配に当たったようである。

寛文4年(1664)9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年(1665)2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41箇村、九戸郡38箇村、志和郡4箇村、都合83箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区域を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、製鉄業、造船業などがあり、特に製鉄は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である「目付所日記」、「勘定所日記」、民間の史料では『晴山家文書』、『濵沢家文書』、『西町屋(石橋)文書』などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれ、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保9年(1838)には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、木沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。『晴山家文書』の天保8年(1837)「寛政半中より拾書」に鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年(1778)に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和2年(1802)からは飛驒の浜谷(屋)茂八郎が引き継いだ。文政6年(1823)には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年(1834)の百姓一揆後は、軽米の濱沢円右衛門が支配人を命じられ、天保9年からは江戸の美濃屋宗(惣)三郎(家臣名金子丈右衛門)へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として、町指定史跡の有家台場(46)がある。「目付所日記」によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年(1791)に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政5年(1793)の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、湊浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、「目付所日記」によると文政8年(1825)有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子を見せたので、弓・鉄砲衆など計34人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年(1854)八太郎・湊場尻・館鼻・塩越・鯨・小船渡・有家・久慈通に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場の現況は、八戸線の建設工事などで大部分が破壊されているものの、盛土遺構の一部が残存している。

製鉄関連の遺跡は、21箇所(旧種市町16箇所、旧大野村5箇所)登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山(26)は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町5箇所、旧大野村35箇所の遺跡の所在を確認している。また、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡12箇所の他、密錢場跡や鍛冶場跡など15箇所。旧大野村については製鉄関連の遺跡42箇所と鍛冶場跡を確認した結果報告がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも60箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になるとと考えられる。

なお、南八木遺跡(201)で古代から中世の製鉄関連の遺跡が発見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想される。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登

録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみとみられる。『梅内家文書』の慶安2年(1649)の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畠、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には砂金採取跡として、小手野沢金山(14)、ノソウケ金山(23)の2遺跡が登録されている。

<引用・参考文献>

- 伊東信雄 1953 「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』東北学学会
- 草間俊一 1963 「種市の歴史（原始－中世）種市町諸遺跡の調査報告」種市町役場
- 角川書店 1985 『角川日本地名大辞典3 岩手県』
- 岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
- 田村栄一郎 1987 『みちのくの砂鉄いまいぎこ』
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
1996 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
- 岩手県教育委員会 1998 『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第102集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2002 『上水沢II遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
- 岩手県種市町教育委員会 2004 『平内II遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 岩手県種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書I』種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 岩手県教育委員会 2006 『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第122集
- 洋野町 2006 『大野村誌第二巻史料編1』大野村誌編さん委員会
- 洋野町 2006 『種市町史第六巻通史編（上）』種市町史編さん委員会
- 岩手県洋野町教育委員会 2013 『平内II遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 駒木野智寛・相原淳一 2014 『岩手県における古津波堆積層と遺跡』『岩手考古学』第25号岩手考古学会
- 岩手県洋野町教育委員会 2015 『平内II遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
- (公財) 岩手県文化振興事業団 2015 『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋II遺跡 沼袋III遺跡
八幡沖遺跡 ほか調査概報（39遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集
- 岩手県教育委員会 2016 『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第146集
- (公財) 岩手県文化振興事業団 2016 『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡 房の沢IV遺跡 白石遺跡
ほか調査概報（33遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
- 岩手県洋野町教育委員会 2017 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 岩手県教育委員会 2017 『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第149集
- 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財) 岩手県文化振興事業団
2017 『西平内I遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
- (公財) 岩手県文化振興事業団 2017 『平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖I遺跡・柳洞IV遺跡・八森遺跡
ほか調査概報（28遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2018『北鹿鍊道跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
（公財）岩手県文化振興事業団 2018『平成29年度発掘調査報告書』岩洞湖Ⅰ・Ⅱ遺跡 和野新里神社遺跡 北野川遺跡

木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千賀城遺跡

ほか調査概報（23遺跡）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『南鹿渓Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第697集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第698集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第699集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『鹿鍊浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第702集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2019『南八木遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第703集
岩手県洋野町教育委員会 2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第4集

岩手県洋野町教育委員会 2019『続石遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第6集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2020『サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2020『田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集
久慈広域連合・岩手県洋野町教育委員会 2020『尺沢遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第8集

岩手県洋野町教育委員会 2020『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

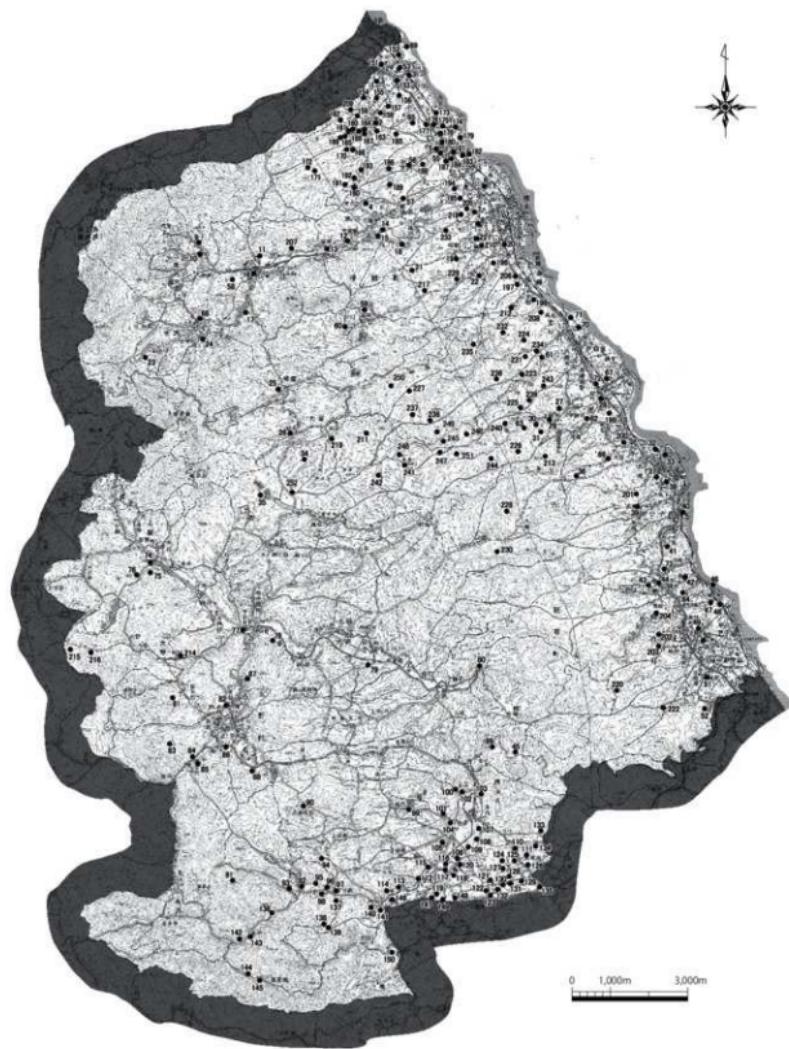
2021『北ノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第725集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『宿戸遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『鹿鍊浜Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第727集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『北玉川Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第728集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2021『板橋Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第729集



第3図 町内遺跡分布図

No.	遺跡名	遺跡名	種別	時代	遺 墓	遺 物	所在地	調査地											
1	[IPB]2365 丸浜	さみどりな	かごのひな	散在地	縄文	縄文土器	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
2	[IPB]2366 丘陵1	てんきなさい	てんきなさい	散在地	縄文	古代	縄文土器（打 - 磨 - 鋸削）、削竹瓦、磨石、石器、土器等	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
3	[IPB]2367 丸山1	かどがめいり	せんじこだいら	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、6号、5号、削竹瓦	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
4	[IPB]2368 千利平	ひらなさい	ひらなさい	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、石器、削竹	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
5	[IPB]2369 甲子1	みなんぐひ	みなんぐひ	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、削竹	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
6	[IPB]2370 朝原	よこ	よこ	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、土器	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
7	[IPB]2371 千の木	ちのき	ちのき	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
8	[IPB]2372 花色	あらいろ	あらいろ	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、先土器	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
9	[IPB]2373 /発生前 (人骨埋葬)	はもんぐうだい	はもんぐうだい	城郭跡	中世	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔
10	[IPB]2374 /発生前 (人骨埋葬)	じううだい	じううだい	城郭跡	中世	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔
11	[IPB]2375 上原	じょうげん	じょうげん	城郭跡	古代	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔
12	[IPB]2376 発発前 (船内船)	あらゆきあさひ	あらゆきあさひ	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
13	[IPB]2377 船内船	あさひ	あさひ	城郭跡	中世	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔
14	[IPB]2378 小野穴室1	このむろしつ1	このむろしつ1	砂質粘土質	近世	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質	砂質粘土質
15	[IPB]2379 上原	じょうげん	じょうげん	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
16	[IPB]2380 桂川 (平城)	だいかわ	だいかわ	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
17	[IPB]2381 桂川 (山城)	だいかわ	だいかわ	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
18	[IPB]2382 小野穴室2	このむろしつ2	このむろしつ2	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
19	[IPB]2383 佐原	さわら	さわら	城郭跡	中世	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器	鐵器
20	[IPB]2384 ゴツツー	ごっつ	ごっつ	散在地	縄文	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器
21	[IPB]2385 たけの木	たけの木	たけの木	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、削竹瓦	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
22	[IPB]2386 丸ノ瀬	まるのせ	まるのせ	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、石器	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
23	[IPB]2387 ノウケ通	のうくわきど	のうくわきど	散在地	縄文	縄文	縄文土器（削 - 磨 - 鋸削）、石器	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
24	[IPB]2388 小野穴室 (チャココ)	このむろしつ (チャココ)	このむろしつ (チャココ)	城郭跡	中世	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔
25	[IPB]2389 佐原	さわら	さわら	城郭跡	中世	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔	寺塔

第1表 町内の遺跡一覧 (1)

第1表 町内の遺跡一覧（2）

No.	遺跡名	通称名	主な文化	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考
26	[1782-2446] 大谷墓山	おおやまとづかん	新石器後	古墳	弥生	楕円土器(浅腹)、石器	標高72.7-74.7m 斜面	/人骨(大谷墓山)	立坑
27	[1783-056] 西ノ船 I	にしのふねい	散在地	楕円土器	绳文	楕円土器(浅腹)、石器	標高70.7-8.8m 斜面	名称変更(平成元年実)	
28	[1784-135] 国分地	くわくべつじ	城跡	中世	平安、鎌倉、平安	円筒形土器(浅腹)、石器	標高29.9m(実測)		
29	[1785-033] 西ノ船 II	にしのふねII	城跡	中世	平安、鎌倉、平安	楕円土器(浅腹)、石器、土器	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
30	[1786-020] Wノ船 II	にしのふねII	散在地	楕円土器	绳文	楕円土器(浅腹)、石器、土器	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
31	[1787-041] 上野谷	かみののや	散在地	楕円土器	绳文	楕円土器(浅腹)	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
32	[1788-080] 大平	おおひら	散在地	楕円土器	绳文、弥生	楕円土器(浅・深腹)、灰土、土器	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
33	[1789-093] 小ヶ原 I	ほりがはらI	片廻	楕円土器	古代	楕円土器、輪状土器、カチ、ミタケ、土器等	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
34	[1797-001] 鹿島山	しかしま	楕円土器	近世	江戸		標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
35	[1797-147] 鹿島山	しかしま	楕円土器	近世	江戸		標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
36	[1798-023] 小田の里山	こだのさとやま	楕円土器	近世	江戸		標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
37	[1798-035] 八木村屋	やぎむらや	片廻	楕円土器	江戸	楕円土器(浅腹)、廻転	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
38	[1798-073] 舟山	そでやま	散在地	楕円土器	江戸	楕円土器(中・深腹)、石製用品(古物時代)	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
39	[1798-245] 長瀬 I	ながせいかいち	散在地	楕円土器	江戸	楕円土器(中・深腹)	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)	名称変更(平成元年実)	
40	[1798-358] 小内山園	こないさんえん	片廻	楕円土器	江戸	楕円土器(浅腹)、ミタケ、イシダチ、 小内山古墳群	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
41	[1799-241] 黒ツツキ園	くろつづきえん	片廻	楕円土器	江戸	楕円土器(浅腹)、石器、土器等	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
42	[1799-039] 仲野口	なかのくち	散在地	楕円土器	江戸	楕円土器(浅腹)、石器	標高27.7m(実) 標高29.9m(実測)		
43	[1799-040] 上のマツキ	う年のマツキ	散在地	楕円土器	江戸、古墳	楕円土器(浅腹)、廻転(深腹)、土瓦、 中盤、瓦器	平成27年度、28年度 本格発掘	名称変更(平成23年度)	⑩ 19
44	[1799-033] 有坂	うば	城跡	中世	平安、鎌倉	楕円土器(浅腹)	有坂城跡(実) 有坂城跡	有坂城跡(実) 有坂城跡	
45	[1799-153] 井ノ池山	いのいけやま	散在地	古墳	平安		井ノ池山(実)	井ノ池山(実)	
46	[1800-006] 有坂地	うば	散在地	古墳	平安		有坂城跡	有坂城跡	
47	[1801-006] 大庭丘	おおひらやま	散在地	古墳	平安	楕円土器(浅腹)、灰土、土器等	小野庭2号墳		
48	[1801-008] 大庭 I	おおひらやまI	散在地	古墳	平安	楕円土器(浅腹)、石器、灰土等	小野庭2号墳		
49	[1801-063] 民屋	みや	散在地	楕円土器	平安	楕円土器(浅腹)	小野庭2・4号墳		
50	[1802-004] 中筋(馬場・馬頭筋)	なかすじ	散在地	楕円土器	平安	楕円土器(浅腹)	小野庭4号墳		
51	[1804-005] 新潟塚	しんがた	散在地	楕円土器	平安		小野庭11号墳	新潟塚(平成25年度)	

No.	遺跡名	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考	文獻
52	IPB60065 道路Ⅰ	よみがれⅠ	人跡・土塁	築造時	築文(櫛型)、石刀	小字御所町 の上部、石器、土器	小字御所町周辺 櫛型石刀29件	浜瀬野台地名古墳・範囲変更(平成23年8月)	④
53	IPB60072 アイヌ貝	あいぬまいり	住居跡	古代	縄文、灰陶、 縄文土器(縦一輪型)、鐵製品 の上部、石器、土器	櫛型石刀29件	-	北・片瀬野(笠置山)	-
54	矢舟	-	-	-	-	-	-	-	-
55	IPB60094 平原Ⅰ	ひらなしさん	住居跡	古代	縄文土器(小鉢)、磨石	櫛型石刀34件	-	範囲変更(平成23年8月)	④
56	IPB60105 石室	いしぐ	住居跡	古代	縄文土器(縦型)、鐵器、鐵器、土器等	櫛型石刀27件	-	範囲変更(平成23年8月)	④
57	IPB60103 墓園	つまつり	住居跡	古代	石器	櫛型石刀、砂器	-	-	-
58	IPB60106 ハラドウ	はるくわ	住居跡	古代	縄文土器(縦型)、土器等	櫛型石刀地盤	-	-	-
59	IPB60203 高原Ⅰ	たかとこいわ	住居跡	古代	縄文土器	櫛型石刀21件	-	-	-
60	IPB60279 高原Ⅱ	たかとりに	住居跡	古代	縄文土器(中・縦型)	櫛型石刀21・22件	-	-	-
61	IPB60402 日輪	ひのひ	住居跡	古代	縄文土器(縦型)、土器	櫛型石刀10・11件	-	-	-
62	IPB61313 朝日	ひあさひや	住居跡	古代	縄文土器	櫛型石刀地盤	-	-	-
63	IPB61337 田ノ川	たののせ	住居跡	古代	縄文土器(縦型)	櫛型石刀7件	-	-	-
64	IPB61678 向日樹	むかのき	住居跡	古代	縄文土器	有字地名	-	-	-
65	IPB61912 平原Ⅱ	ひらなしこ	住居跡、 防風壁	古代	縄文、灰陶、 石器等、鐵製品、鐵器、鐵質、屋根瓦、土坑、圓 窓、火葬場	櫛型石刀29・33件 -25件完全調査 平成11・13年度、23 年期変更(平成23年8月)	-	③ -6	-
66	IPB61919 大河	おおかわ	住居跡	古代	縄文土器、石器	櫛型石刀	-	-	-
67	IPB6199 須	たて	住居跡	古代	縄文土器	櫛型石刀	-	-	-
68	IPB62000 大河	おおかわ	住居跡	古代	縄文土器	櫛型石刀66・68件	-	平成13年度新規発見	-
69	IPB62006 二十一平	じゅういちへい	住居跡	古代	縄文土器、土器等	櫛型石刀地盤	-	平成15年度新規発見、範囲変更(平成23年8月)	④
70	IPB62061 五郎Ⅰ	だざわらひや	住居跡	古代	縄文土器(縦型)	櫛型石刀13件	-	-	-
71	IPB62028 五郎Ⅱ	だざわらひ	住居跡	古代	縄文土器(縦型)	櫛型石刀13・14件	-	-	-
72	IPB61126 扇原Ⅰ	ほりはら	住居跡	古代	縄文土器	平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年8月)	-	-	-
73	IPB61314 久義	ひさし	住居跡	古代	縄文土器、石器	平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年8月)	-	-	⑫
74	IPB60118 田川Ⅱ	たかひだに	住居跡	古代	縄文土器	人跡群20件	-	-	-

第1表 町内の遺跡一覧（3）

第1表 町内の遺跡一覧（4）

No.	遺跡名	立地	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考	文書
75	JF86-0127 田山	ひかわだ	散在地	绳文	绳文土器(破片)、石器	大字南22地割			
76	JF86-0134 田山1	ひかわだ(1), 5	散在地	绳文	绳文土器(破片)、石器	大字南20地割			
77	JF86-0135 田山1	ひかわだ(2)	城跡	中世	草席、土器、陶片、平磚	大字南29地割	昭和36年度測量		
78	JF86-0136 田山2	ひかわだ(3)	城跡	古墳		大字南26、37地割			
79	JF86-0136 田山(城内街)	ひかわだ(4)	城跡	中世	瓦器、瓦片	大字南26地割	昭和36年度測量		
80	JF86-0138 田山(城内街)	ひかわだ(5)	城跡	中世	瓦器、瓦片	大字南25地割	昭和36年度測量		
81	JF86-0172 たひら館	たひら館	城跡	中世	瓦器、瓦片	大字南13地割	昭和36年度測量		
82	JF86-0182 丘原	ながね	散在地	绳文	绳文土器(火附・焼附)、石器	大字南72地割			
83	JF86-1289 鹿鳴前	んせいだ	城跡	中世	瓦器、陶片、平磚	大字南18地割	昭和36年度測量		
84	JF86-2208 鹿鳴前日	んせいだ(1)	散在地	绳文	绳文土器、石器	大字南4地割			
85	JF86-2209 鹿鳴前1	んせいだ(2)	散在地	绳文	绳文土器、石器	大字南5地割			
86	JF86-2215 大野原	おののへ	城跡	中世	瓦器	大字南5地割	昭和36年度測量		
87	JF86-0112 ひとえこ	ひとえこ	城跡	中世	瓦器、陶片、平磚、壺穴	大字南68、69地割	昭和36年度測量		
88	JF86-0165 金ノ沢	かながさわ	散在地	绳文	绳文土器(瓦面)	大字南17地割			
89	JF86-0269 河木原	あこぎだ	城跡	中世	瓦器、陶片、壺穴	河木原4地割	昭和36年度測量		
90	JF86-0168 高音	たかおん	散在地	绳文		大字南35地割			
91	JF86-2061 上井戸1	かみいどせうどい	散在地	绳文	绳文土器	大字南5地割			
92	JF86-2186 上井戸1	かみいどせうどい(1)	散在地	绳文	绳文、赤生	大字南7地割	昭和36年度測量		
93	JF86-2196 上井戸1	かみいどせうどい(2)	散在地	绳文	绳文土器	大字南5地割	昭和36年度測量		
94	JF86-2196 高畠1	たかひだい	散在地	绳文	绳文土器	大字南7地割			
95	JF86-2272 上井戸1	かみいどせうどい	散在地	绳文	绳文土器	大字南7地割	昭和36年度測量		
96	JF86-2275 上井戸1(城内街)	かみいどせうどい(2)	城跡	中世	瓦器	大字南7地割	昭和36年度測量		
97	JF86-2280 下井戸1	しもいどせうどい	散在地	绳文	绳文土器	大字南8地割			
98	JF86-2294 上井戸1	かみいどせうどい(3)	散在地	绳文	绳文土器	大字南7地割			
99	JF86-0067 逸見	いつみ	散在地	绳文		大字南11地割	昭和36年度測量		

No.	遺跡名	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考	文庫
100	JF86-029	日本1	ひなごとく	散在地	古代	土塁跡	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
101	JF86-006	千葉鳥1	せんばとり1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
102	JF86-023	日本2	ひなごとく	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
103	JF86-025	阿木	あぎ	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
104	JF86-108	千葉鳥2	せんばとり2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
105	JF86-156	鶴鳴1	つるめい1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
106	JF86-199	上野1	うの1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
107	JF86-225	二ノ原	ふたのはら	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
108	JF86-254	千葉鳥3	せんばとり3	散在地	古代	土塁跡	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
109	JF86-272	千葉鳥4	せんばとり4	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
110	JF86-375	二ノ原4	ふたのはら4	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
111	JF86-388	長森1	ながもり1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
112	JF86-389	長森2	ながもり2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
113	JF86-373	大曾根	おおぞね	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
114	JF86-383	大曾根V(廻転船)	おおぞねV	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
115	JF86-311	鶴鳴	つるめい	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
116	JF86-317	HEL1	せきぐらい1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
117	JF86-327	HEL2	せきぐらい2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
118	JF86-346	千葉鳥5	せんばとり5	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
119	JF86-394	上野2	うの2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
120	JF86-221	上野鳥1	うのとり1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
121	JF86-269	赤塚1	あかつか1	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
122	JF86-287	赤塚2	あかつか2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
123	JF86-298	赤塚3	あかつか3	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
124	JF86-301	赤塚V	あかつかV	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
125	JF86-304	赤塚4	あかつか4	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			
126	JF86-318	長森2	ながもり2	散在地	現代	構文書	大曾根3丁目地所、 河内木場寺南側			

No.	地名コード	通称名	品目区分	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査対象	備考	文書
127	JF86-2822	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
128	JF86-2833	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
129	JF86-2837	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
130	JF86-2871	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
131	JF86-2875	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
132	JF86-2880	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地	子承家	
133	JF86-2882	長森里	土器類	散在地	縄文	石器	河内木場12地蔵	河内木場12地蔵		
134	JF86-1061	片森N	土器類	散在地	縄文	遺文・器	河内木場12地蔵	河内木場12地蔵		
135	JF86-2071	赤坂裏	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地		
136	JF87-040	上本郷	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町3番地	水谷町3番地		
137	JF87-0218	下本郷II	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町3番地	水谷町3番地		
138	JF87-0265	金屋里I	土器類	散在地	縄文	縄文・柱、瓦	水谷町3番地	水谷町3番地		
139	JF87-0297	金屋里II	土器類	散在地	縄文	遺文・器、土器器、瓦水道	水谷町12地蔵	水谷町12地蔵		
140	JF87-0327	大塚I	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町10地蔵	水谷町10地蔵		
141	JF87-0330	大塚II	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町10地蔵	水谷町10地蔵		
142	JF87-0322	中I	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町2番地	水谷町2番地		
143	JF87-0323	中II	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町2番地	水谷町2番地		
144	JF87-2000	舟塚里II	土器類	散在地	縄文	遺文・器(火照)	水谷町14地蔵	水谷町14地蔵		
145	JF87-2027	舟塚里	土器類	散在地	縄文	遺文・器、石器	水谷町13地蔵	水谷町13地蔵		
146	JF86-0002	人見里	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町2番地	西向町2番地		
147	JF86-0101	帝釈御地!	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町2番地	水谷町2番地		
148	JF86-0108	赤坂裏地III	土器類	散在地	縄文	遺文・器	子承家	子承家		
149	JF86-0116	赤坂裏地地質	土器類	散在地	縄文	遺文・器	西向町7番地	西向町7番地		
150	JF85-0162	太田	土器類	散在地	縄文	遺文・器	水谷町11地蔵	水谷町11地蔵		
151	JF87-1367	西山川I	土器類	散在地	縄文	石器	西向町41地蔵	西向町41地蔵		
152	JF88-1042	西山川II	土器類	散在地	縄文	遺文・器、繩	横山町41地蔵	横山町41地蔵		
153	JF88-2005	角田日日	土器類	散在地	縄文	遺文・器	横山町39・40番	横山町39・40番		
154	JF87-2345	田ノ堀I	土器類	散在地	縄文	遺文・器(火照)	横山町42地蔵	横山町42地蔵		

第1表 町内の遺跡一覧（6）

第1表 町内の遺跡一覧（7）

No.	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考	文獻
155	IFEG-2366	伝北1	土塁跡	築文	築文土器	散在地	築造跡(3)地図		●4
156	IFEG-2365	伝北2	土塁跡	築文	築文土器(痕跡)	散在地	築造跡(3)地図		●4
157	IFEG-2369	伝北3	土塁跡	築文	築文土器	散在地	築造跡(3)地図		●4
158	IFEG-2397	伝北4	土塁跡	築文	築文土器、石斧、敲石、骨器	散在地	築造跡(3)地図		●4
159	IFEG-2390	伝北5	土塁跡	築文	築文土器、石斧、敲石、骨器	散在地	築造跡(3)地図		●4
160	IFEG-2399	伝北6	土塁跡	築文	築文土器	散在地	築造跡(3)地図		●29
161	IFEG-0258	伝北7	土塁跡	築文	築文土器	散在地	築造跡(3)地図		●4
162	IFEG-0256	伝北8	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(3)地図		●4
163	IFEG-0345	北・東V	土塁跡	築文	築文土器、土気、骨質土製品	散在地	築造跡(3)地図 本塗剥離層	新開発区(平成25年夏)	●4 ●33
164	IFEG-0333	北・西II	土塁跡	築文	築文土器、土器	散在地	築造跡(4)地図		●4
165	IFEG-0268	北・西IV	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(4)地図		●4
166	IFEG-0260	北・西VII	土塁跡	築文	築文土器(痕跡)、土器	散在地	築造跡(4)地図		●4
167	IFEG-0344	北・東V	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
168	IFEG-0341	北・東VI	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
169	IFEG-0257	北・西VII	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
170	IFEG-0269	北・東VIII	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
171	IFEG-1250	北・東IX	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
172	IFEG-1138	北・東X	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
173	IFEG-0392	北・内I	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(5)地図		●4
174	IFEG-0127	北・内II	土塁跡	築文	瓦片、古代	散在地	築造跡(6)地図		●4
175	IFEG-0123	北・内II	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(6)地図		●4
176	IFEG-0121	北・内II	土塁跡	築文	瓦片	散在地	築造跡(6)地図		●4
177	IFEG-0110	北・内V	土塁跡	築文	瓦片、水生	散在地	築造跡(6)地図 の125	○1地點	●4
178	IFEG-0443	北・内VI	土塁跡	築文	瓦片、古代	散在地	築造跡(6)地図		●4
179	IFEG-0156	北・内VI	土塁跡	築文	瓦片土器(痕跡)、石斧、敲石	散在地	築造跡(6)地図	新開発区(平成26年)	●4
180	IFEG-0174	平野	土塁跡	築文	瓦片土器(痕跡)、石斧、敲石、土器	散在地	築造跡(6)地図		●4

第1表 町内の遺跡一覧（8）

No.	遺跡名	遺跡名	性質	時代	遺跡	所在地	調査地	調査者	文獻
181	IF86-048 平原V	ひらかだい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、石斧、骨器	桂木山	桂木山33-5地 面		※ 4
182	IF86-1200 埋戸Ⅰ	みとひらかだい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、骨器	桂木山	桂木山33地 面		※ 4
183	IF86-1209 埋戸Ⅱ	みとひらかだい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、石器	桂木山	桂木山33地 面		※ 4
184	IF86-126 西平内Ⅲ	みとひらかだい	散在地	縄文	縄文土器、骨器	桂木山	桂木山33地 面		※ 4
185	IF86-004 西平内Ⅳ	みとひらかだい	散在地	縄文	縄文土器、直削、石斧、石器	桂木山	桂木山33地 面		※ 4
186	IF86-046 西平内Ⅴ	みとひらかだい	散在地	縄文	縄文土器、直削、石斧、石器	桂木山	桂木山33地 面		※ 4
187	IF86-115 東平内Ⅰ	ひがしひらかだい	散在地	縄文	縄文土器、石斧、石器、骨器	桂木山	桂木山34地 面		※ 8
188	IF86-020 東平内Ⅱ	ひがしひらかだい	散在地	縄文	縄文土器	桂木山	桂木山34地 面		※ 12
189	IF86-005 東平内Ⅲ	ひがしひらかだい	散在地	縄文	石斧、骨器	桂木山	桂木山34地 面		※ 24
190	IF86-390 地原Ⅰ	ひばりがれい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、石斧、石器、骨器	桂木山	桂木山35地 面		※ 32
191	IF86-286 地原Ⅱ	ひばりがれい	散在地	縄文	縄文土器、石斧、石器	桂木山	桂木山35地 面		※ 4
192	IF86-390 地原Ⅲ	ひばりがれい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、骨器	桂木山	桂木山35地 面		※ 4
193	IF86-045 地原Ⅳ	ひばりがれい	散在地	縄文	縄文土器(直削)、骨器	桂木山	桂木山35地 面		※ 4
194	IF86-106 前川Ⅹ	みなみかわし	集落跡、 斜面崩	縄文	縄文土器、石器	桂木山	桂木山35地 面	平成25年度新発見	※ 7
195	IF86-226 せんごくⅠ	さんごく	集落跡、 斜面崩	縄文	縄文土器	桂木山	桂木山35地 面	平成25年度新発見	※ 14
196	IF86-226 北側	さんごくⅡ	集落跡、 斜面崩	縄文	縄文土器、石器	桂木山	桂木山35地 面	平成25年度新発見	※ 14
197	IF86-354 墓塚Ⅲ	かぬかはまに	集落跡、 斜面崩	縄文	縄文土器、石器	桂木山	桂木山35地 面	平成25年度新発見	※ 16
198	IF86-399 墓塚Ⅳ	かぬかはまに	集落跡	縄文	縄文土器、石器	桂木山	桂木山35地 面	平成25年度新発見	※ 15
									※ 22
									※ 25

第1表 町内の遺跡一覧 (9)

第1表 町内の遺跡一覧 (10)

No.	遺跡名	通称名	主ながれ	特徴	時代	遺構・遺物	所在地	調査結果	備考	文獻
217	[IP84]170 風見1	いたばいじやく	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場	標高約21m	平成20年度新規発見。名称未定(令和元年春)		文8
218	[IP84]250 中二ヶ谷Ⅲ	さんごやさん	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、土坑、埴輪、瓦器、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦陶器	標高約25m	本年度既見	平成20年度既見	文14 ※27
219	[IP84]265 風見Ⅱ	まつせりけに	おみがれ	特異跡	不明	廻し式火葬場	標高約17m	平成20年度新規発見。	合計2年度既見	文25
220	[IP84]265 大泥Ⅱ	しきめいに	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、土坑、廻し式火葬場、土坑、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦器、灰陶土器、瓦陶器、鐵文土器、灰陶土器、瓦陶器	標高約17m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文25
221	[IP84]264 風見Ⅲ	いたばいじやく	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、土坑、廻し式火葬場、土坑、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦陶器、鐵文土器、瓦陶器	標高約21m	平成30年度既見。	平成30年度既見。	文37
222	[IP84]384 大泥	しきめい	おみがれ	特異跡	不明	廻し式火葬場、土坑、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦陶器	標高約17m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文31
223	[IP84]265 風見川Ⅰ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、土坑、不規則窓、鐵文土器、灰陶土器、鐵文土器、灰陶土器	標高約11m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文30 ※26
224	[IP84]266 風見川Ⅱ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	古代	廻し式火葬場、土坑、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦陶器	標高約11m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
225	[IP84]266 風見川Ⅰ	にしきめい	おみがれ	特異跡	古代	廻し式火葬場、土坑、鐵文土器、石器、灰陶土器、灰陶土器	標高約19m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38 ※41
226	[IP84]264 男見Ⅱ	はげみ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、土坑、不規則窓	標高約7m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
227	[IP84]265 風見川Ⅲ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	古代	廻し式火葬場、鐵文土器、石器、灰陶土器、瓦陶器	標高約11m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文36 ※41
228	[IP84]351 小豆ノ片Ⅱ	このだのせんに	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場	標高約20m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
229	[IP84]170 風見Ⅲ	いたばいさん	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、鐵文土器、石器	標高約21m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
230	[IP84]269 花見Ⅱ	なみさかに	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場	小内山第7地所	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
231	[IP84]262 風見川Ⅳ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	土坑、鐵文土器	標高約11m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文39
232	[IP84]280 花見Ⅲ	あたなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場	標高約14m	合計2年年度既見。	合計2年年度既見。	文38 ※39
233	[IP84]265 風見Ⅴ	いたばいさん	おみがれ	特異跡	縄文	土坑	標高約21m	合計元年冬本年度既見。	合計2年年度既見。	文38
234	[IP84]269 風見川Ⅴ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、鐵文土器、灰陶土器、瓦陶器	標高約11m	合計2年年度既見。	合計2年年度既見。	文40
235	[IP84]213 風見川Ⅵ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場、鐵文土器、灰陶土器、瓦陶器	標高約11m	合計2年年度既見。	合計2年年度既見。	文40
236	[IP84]250 風見川Ⅶ	みんなまきわらひ	おみがれ	特異跡	縄文	廻し式火葬場	標高約11m	合計2年年度既見。	合計2年年度既見。	文40

No.	遺跡名	遺跡名	種別	遺 墓	時 代	遺 物	所在地	調査結果	備 考
237	[1984-006] 相川遺	みなんみまさがわせうら	散在地	6号墓壙、墓上土、石器	縄文		横山町11地区	令和3年冬定期発見	令和3年定期発見
238	[1985-232] 相川遺	みなんみまさがわせうら	散在地	土塀、焼成土塊、瓦、土器	縄文		横山町11地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
239	[1985-266] 相川遺	にし～めけに	散在地	漆灰瓦、石器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
240	[1985-232] 相川遺	みなんみまさがわせうら	散在地	土塀、焼成土塊、瓦、土器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
241	[1978-045] 相川遺	にし～めけさん	散在地	漆灰瓦、土器、瓦、土器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
242	[1977-075] 相川遺	にし～めけさん	散在地	漆灰瓦、土器、瓦、土器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
243	[1984-022] 相川遺	にし～めけご	散在地	土塀、焼成土塊、ビット	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
244	[1978-022] 黑崎遺	はばさん	散在地	漆灰瓦、土器、瓦、土器	縄文		横山町7地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
245	[1988-075] 相川遺	にし～めけちく	散在地	土器、瓦、土器、石器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
246	[1988-255] 相川遺	にし～めけなな	散在地	土器、瓦、土器、石器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
247	[1978-016] 相川遺	にし～めけはな	散在地	土塀、焼成土塊、土器、瓦、土器	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
248	[1978-013] 相川遺	にし～めけきゅう	散在地	漆灰瓦	縄文		横山町10地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
249	[1988-233] 相川遺	にし～めけじゅう	散在地	土器、瓦、土器	縄文		横山町11地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
250	[1988-021] 相川遺	みなんみまさがわせうら	散在地	漆灰瓦	縄文		横山町8地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
251	[1978-016] 相川遺	みなんみまさがわせうら	散在地	石器、石製品	縄文		横山町7地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見
252	[1971-125] 余ヶ音遺	まつかれさん	散在地	漆灰瓦、土器、瓦、土器	縄文		横山町74地区	令和3年冬定期発見	令和3年冬定期発見

第1表 町内の遺跡一覧 (11)

(文献について、それぞれ次のように略した)

「※ 1」 (財) 岩手県文化振興事業団地域文化振興センター 1996・2001 「ゴッソー遺跡 白堀周防遺跡報告書」 岩手県文化振興事業団地域文化振興センター 2002 「上水原Ⅱ遺跡 白堀周防遺跡報告書」 岩手県文化振興事業団地域文化振興報告書 第357集

「※ 2」 岩手県久慈市町村行会議員会 2004 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 (財) 岩手県文化振興事業団地域文化振興報告書 第391集

「※ 3」 岩手県樫木町行会議員会 2015 「樫木町内遺跡詳細分布図調査報告書」 樫木町行会議員会地域文化振興報告書 第2集

「※ 4」 岩手県行会議員会 2013 「平内Ⅰ遺跡 白堀周防遺跡報告書」 津野町行会議員会地域文化振興報告書 第1集

「※ 5」 岩手県行会議員会 2015 「平内Ⅱ遺跡 白堀周防遺跡報告書」 津野町行会議員会地域文化振興報告書 第2集

「※ 6」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2015 「平成26年度発掘調査報告書」 前川尾遺跡 下向通路 沿段Ⅲ道路 八幡神道跡(13分野)報告書 [39通解]

- 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第64集
- 「※ 8」 岩手県教育委員会 2016 「岩手県内道路免賃調査報告書」 岩手県文化財調査報告書第64集
- 「※ 9」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2016 平成27年度免賃調査報告書 サニーバード 駐車場、房の沢駅前道路 白石道路は小糸柵原橋 (33 渡跡)
- 「※ 10」 岩手県洋野町教育委員会 2017 「ゴツソー遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第65集
- 「※ 11」 岩手県教育委員会 2017 「岩手県内道路免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第65集
- 「※ 12」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2017 「西平内 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第67集
- 「※ 13」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2017 平成28年度免賃調査報告書 岩手県 1 道跡 横断面調査 (28 渡跡)
- 「※ 14」 岩手県教育委員会 2018 「岩手県内道路免賃調査報告書」 (平成 28 年度 具岡開拓) 岩手県文化財調査報告書第149集
- 「※ 15」 岩手県教育委員会 2018 「岩手県内道路免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第686集
- 「※ 16」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2018 「北二十九・三十 渡跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第687集
- 「※ 17」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2018 平成29年度免賃調査報告書 岩手県 1 道跡 和野新幹社道跡 (23 渡跡) 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第692集
- 「※ 18」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2019 「北野道跡 (23 渡跡)」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第697集
- 「※ 19」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2019 「南側道跡 (23 渡跡)」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第698集
- 「※ 20」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2019 「小田 (北野道跡全般調査報告書)」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第699集
- 「※ 21」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2019 「荒神内 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第701集
- 「※ 22」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2020 「田ノ原 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第702集
- 「※ 23」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2019 「南人木道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第703集
- 「※ 24」 岩手県洋野町教育委員会 2019 「西平内 1 道跡 (ドボル) 1 道跡 (10 渡跡)」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第4集
- 「※ 25」 岩手県教育委員会 2019 「下向引 1 道跡免賃調査報告書」 津野野川遺跡文化財調査報告書第5集
- 「※ 26」 岩手県洋野町教育委員会 2019 「横石道跡免賃調査報告書」 津野野川遺跡文化財調査報告書第6集
- 「※ 27」 岩手県教育委員会 2020 「サンニヤー遺跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第714集
- 「※ 28」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業団 2020 「田ノ原 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第715集
- 「※ 29」 (公財) 岩手県文化振興事業団 2020 「久慈川 1 道跡 (10 渡跡)」 久慈川道跡 (23 渡跡) 沿岸湖道 上矢切 1 道跡 矢崎橋 (23 渡跡) 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第721集
- 「※ 30」 岩手県洋野町教育委員会 2020 「前玉川 1 道跡 - 小田 1 道跡 (免賃調査報告書)」 津野野川遺跡文化財調査報告書第7集
- 「※ 31」 久慈川道跡合・岩手県洋野町教育委員会 2020 「久慈川道跡 (免賃調査報告書)」 津野野川遺跡文化財調査報告書第8集
- 「※ 32」 岩手県洋野町教育委員会 2020 「西平内 1 道跡免賃調査報告書」 津野野川遺跡文化財調査報告書第9集
- 「※ 33」 岩手県教育委員会 2021 「北二尺 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第725集
- 「※ 34」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業財團 2021 「留日野跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第726集
- 「※ 35」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業財團 2021 「地施堤 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第727集
- 「※ 36」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業財團 2021 「北二尺 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第728集
- 「※ 37」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・公財) 岩手県文化振興事業財團 2021 「板塙 1 道跡免賃調査報告書」 岩手県文化振興事業財團文化財調査報告書第729集
- 「※ 38」 岩手県洋野町教育委員会 2021 「洋野町内試掘調査報告書」 洋野町内試掘調査報告書第10集
- 「※ 39」 岩手県洋野町教育委員会 2021 「北二尺 1 道跡 - 南玉川 1 道跡免賃調査報告書」 津野野川遺跡文化財調査報告書第11集
- 「※ 40」 岩手県洋野町教育委員会 2022 「洋野町内試掘免賃調査報告書」 洋野町内試掘免賃調査報告書第12集
- 「※ 41」 岩手県洋野町教育委員会 2022 「洋野町内道路免賃調査報告書」 洋野町内道路免賃調査報告書第13集

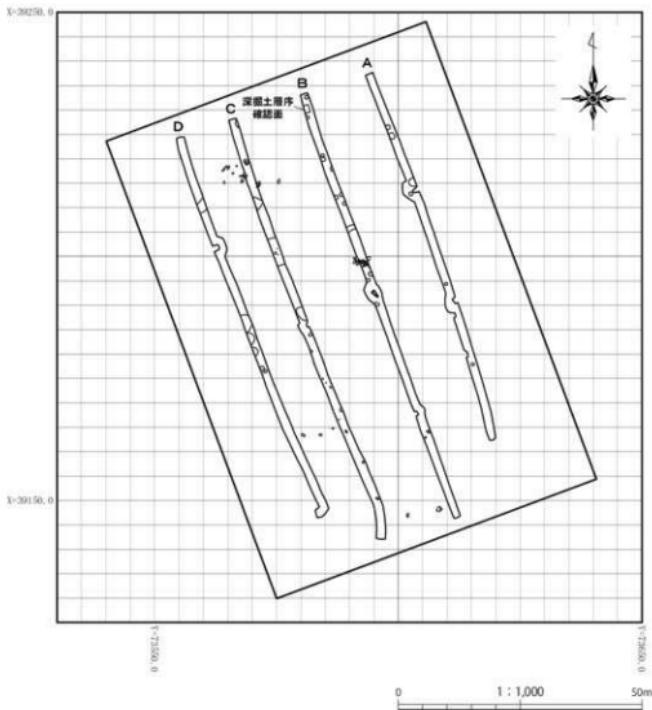
III. 試掘調査の概要

1. トレンチの設定

試掘調査は、事業対象面積7,000 m²に対し、南北方向に4本のトレンチを設定し実施した(第4図)。トレンチは1.5m幅とし、長さについては現況に応じて設定した。

トレンチは東側よりA、B、C、Dと呼称した。グリッドの設定は行わず、遺物の取り上げは、北側、中央、南側と区分し、おおよその地点が把握できるよう行った。調査面積は、Aトレンチ143 m²、Bトレンチ167 m²、Cトレンチ166 m²、Dトレンチ149 m²の合計625 m²である。

また、遺跡内の土層序観察のため、Bトレンチ北側に深掘区を設定した。



第4図 トレンチ配置図

2. 野外調査について

調査は令和3年6月28日～同年7月2日の日程で実施した。調査の手順は、バックホー(バケット土量0.45m³)によりⅠ層(表土)及びⅡ層を除去し、スコップや鍬鋤籠で壁面成形後、剪定鋸・根切り鉄を用い、草木根の除去を行った。その後、Ⅲ層上面において精査し、遺構の所在の確認を行った。

確認された遺構は46基であり、その内訳は縄群が13基、住居跡とみられるプランや埋設土器などが33基である。遺構には通し番号を付与した。遺物は、遺構確認面については番号を付与し、平面図作成とともにトータルステーションによる測量を行い、取り上げた。なお試掘調査のため、遺構覆土の掘削は行わず、一部の遺物については現地保存とした。また、遺構覆土から放射性炭素年代測定のため、試料の採取を行った(第V章参照)。

記録写真については、デジタルカメラにて撮影を行い、作業状況とともに台帳に記録した。

トレント調査の結果を受け令和3年7月13日～同年8月5日に追加調査を実施した。期間中7月13日・14日にはいろは写房の稻野彰子氏による縄群の写真撮影を実施した(写真図版1～5)。また、14日には株式会社ラングの横山真氏による検出縄の加工痕等の確認を、19日には花崗岩研究会の柳澤忠昭氏による検出縄の石質鑑定を実施した(第2表)。20日・21日にはトレント周辺のハンドボーリング調査を実施し、縄群の広がりについて確認を行った(第19図)。また、21日には盛岡大学名誉教授熊谷常正氏にご来跡いただき、知見を賜った。

7月2日、15日、8月4日には、無人航空機(ドローン)による空中写真撮影を行った。

調査終了後は埋戻しを行い、8月5日調査を完了した。

3. 室内整理について

野外調査終了後、検出された遺物を含む記録を整理し、試掘調査報告書の編集作業を行った。

土器は報告書掲載資料の抽出及び観察表の作成を行い、随時図化作業を実施した。石器は石器観察及び石質鑑定と観察表の作成をでじたる工房の山本克氏に依頼した。

野外調査で撮影したデジタル写真についてはファイル名のリネームを行った。図面については「A-Survey」(エースプロジェクト)で第一原図を編集し、データ変換後、報告書掲載用の図として第二原図の編集を行った。

これらの作業と並行して原稿執筆・挿表作成を行い、完成した個々の挿図や調整済の画像等を併せて報告書を編集した。なお、図化・編集作業に使用したソフトは下記のとおりである。

Adobe 社製 「Illustrator CC」 遺物図トレース・遺構第二原図編集

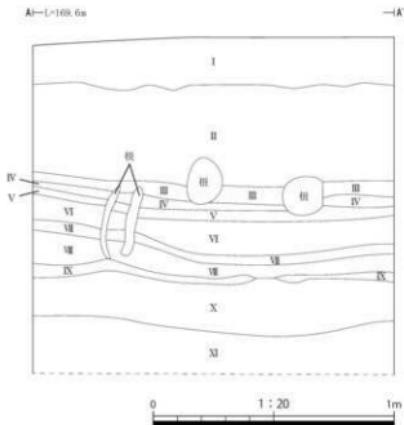
「Photoshop CC」 掲載用各写真画像調整

「InDesign CC」 組版・編集

IV. 遺跡の地形と土層序

南戸類家II遺跡は、南に土釜川を臨む標高153m～168mの段丘上に立地する。遺跡の東西には南から谷が入り込んでおり、南に張り出す幅100m程の丘陵上に位置する（第2図）。調査地点は南西方向への緩斜面地となっている。

土層断面図は、Bトレント北側西壁で作成した（第5図）。I層は暗褐色土、II層はにぶい黄褐色土、III層は明黄褐色土で、遺構はIII層上面で検出した。以下、IV層はにぶい黄褐色土、V～X層は明黄褐色を呈する縮まりの強い土層である。XI層は褐色土、XII層はにぶい褐色土、XIII層は橙色土である。



深掘土層序（Bトレント西壁）

I	10T3/3 暗褐色土	粘性やや中 縮まり無 草根入る 視認土
II	10T4/4 にぶい黄褐色土	粘性やや中 縮まり中 草根入る 10T8/4淡黄褐色小～中粒5%入る
III	10T6/6 明黄褐色土	粘性やや中 縮まり強 10T8/4淡黄褐色小～中粒10%入る
IV	10T9/6/4 にぶい黄褐色土	粘性やや中 縮まり弱 10T8/4淡黄褐色小粒3%入る
V	10T9/8 明黄褐色土	粘性やや中 縮まり極めて弱 10T8/4淡黄褐色小～中粒20%入る 7.5T8/8黄褐色中粒15%入る
VI	10T9/8 明黄褐色土	粘性中 縮まり極めて弱 10T8/4淡黄褐色小～中粒2%入る
VII	10T9/8 明黄褐色土	粘性中 縮まり極めて弱 10T8/4淡黄褐色小～中粒20%入る 7.5T8/8黄褐色中粒20%入る
VIII	10T9/8 明黄褐色土	粘性中 縮まり極めて弱 10T8/4淡黄褐色小～中粒3%入る
IX	10T9/1 棕褐色土	粘性強 縮まり弱
X	7.5T9/4 にぶい褐色土	粘性強 縮まり中 10T9/4棕灰色ブロック5%入る
XI	7.5T9/6 橙色土	粘性強 縮まり中 10T9/4棕灰色ブロック5%入る 10T9/4棕褐色ブロック10%入る

第5図 深掘土層序

V. 南戸類家II遺跡の自然科学分析

-土坑出土炭化物、土器付着炭化物の年代測定-

株式会社加速器分析研究所

1. 測定対象試料

南戸類家II遺跡は、太平洋に面する段丘上に立地する。測定対象試料は、調査地内から検出された土器(第29図5、写真図版A)の外側付着炭化物、Cトレンチ内のSX25及びBトレンチ内のSX7の遺構確認面から出土した炭化物試料2点である(第A表)。

2. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l(1 M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AnA」と第A表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3. 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4. 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からの差を千分偏差(‰)で表した値である(第A表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として過る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5560年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代はも¹³Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第A表に、補正していない値を参考値として第B表、第C表に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴C

が少ないほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第A表に、補正していない値を参考値として第B表、第C表に示した。

- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.3\%$)あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線及び較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、oxCalv4.4較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第B表、第C表に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」又は、「cal BP」という単位で表される。

5. 測定結果

測定番号	試料名	採取場所	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
				Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-210794	縄文土器表面付着炭化物 (第29図5、写真図版A)	調査地内	AAa	-25.98 ± 0.21	3,420 ± 30
IAAA-210795	炭化物試料①	C ブレンチ SX5	AAA	-25.71 ± 0.19	3,510 ± 30
IAAA-210796	炭化物試料②	B ブレンチ SX7	AAA	-24.21 ± 0.19	3,580 ± 30
					64.59 ± 0.2
					64.03 ± 0.2

第A表 放射性炭素年代測定結果① ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1 σ 年代範囲		2 σ 年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)		1σ	2σ	1σ	2σ
IAAA-210794	3,440 ± 30	65.2 ± 0.21	3,419 ± 25	3496caBP - 3625caBP (60.8%)	3818caBP - 3796caBP (5.7%)	3720caBP - 3575caBP (89.7%)	3860caBP - 3860caBP (1.4%)
IAAA-210795	3,520 ± 30	64.5 ± 0.2	3,511 ± 25	3835caBP - 3820caBP (11.3%)	3866caBP - 3866caBP (94.0%)	3796caBP - 3723caBP (56.9%)	3852caBP - 3696caBP (94.0%)
IAAA-210796	3,570 ± 30	64.13 ± 0.2	3,581 ± 25	3908caBP - 3839caBP (68.3%)	3973caBP - 3942caBP (11.7%)	3932caBP - 3829caBP (82.2%)	3787caBP - 3778caBP (1.5%)

第B表 放射性炭素年代測定結果② ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、历年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BP)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1 σ 年代範囲		2 σ 年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)		1σ	2σ	1σ	2σ
IAAA-210794	3,440 ± 30	65.2 ± 0.21	3,419 ± 25	1749caBC - 1676caBC (60.8%)	1869caBC - 1849caBC (5.7%)	1654caBC - 1641caBC (7.5%)	1771caBC - 1626caBC (89.7%)
IAAA-210795	3,520 ± 30	64.5 ± 0.2	3,511 ± 25	1886caBC - 1871caBC (11.3%)	1919caBC - 1911caBC (1.4%)	1847caBC - 1774caBC (56.9%)	1903caBC - 1747caBC (94.0%)
IAAA-210796	3,570 ± 30	64.13 ± 0.2	3,581 ± 25	1959caBC - 1890caBC (68.3%)	2024caBC - 1993caBC (11.7%)	1983caBC - 1882caBC (82.2%)	1838caBC - 1829caBC (1.5%)

第C表 放射性炭素年代測定結果③ ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、历年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BC/AD)

<文献>

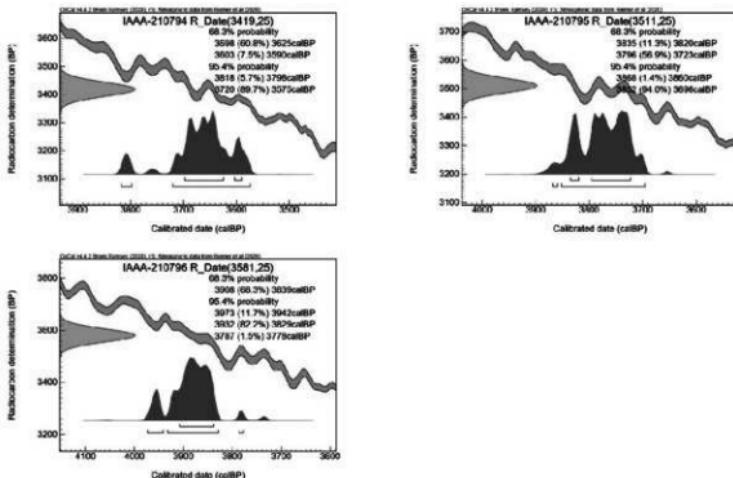
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

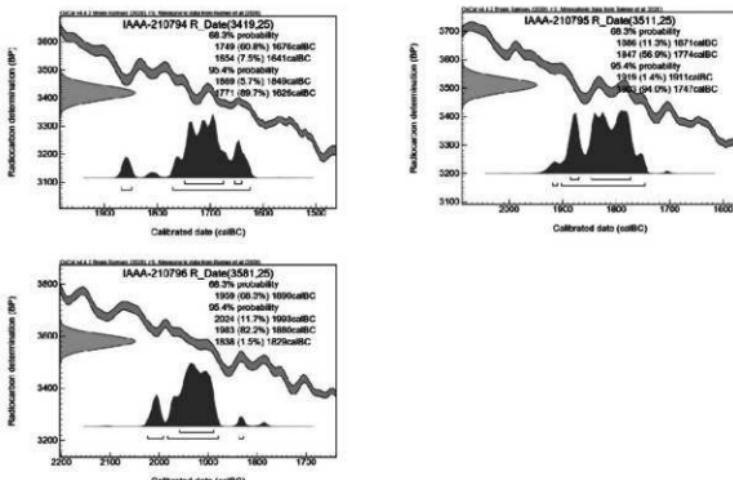
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363



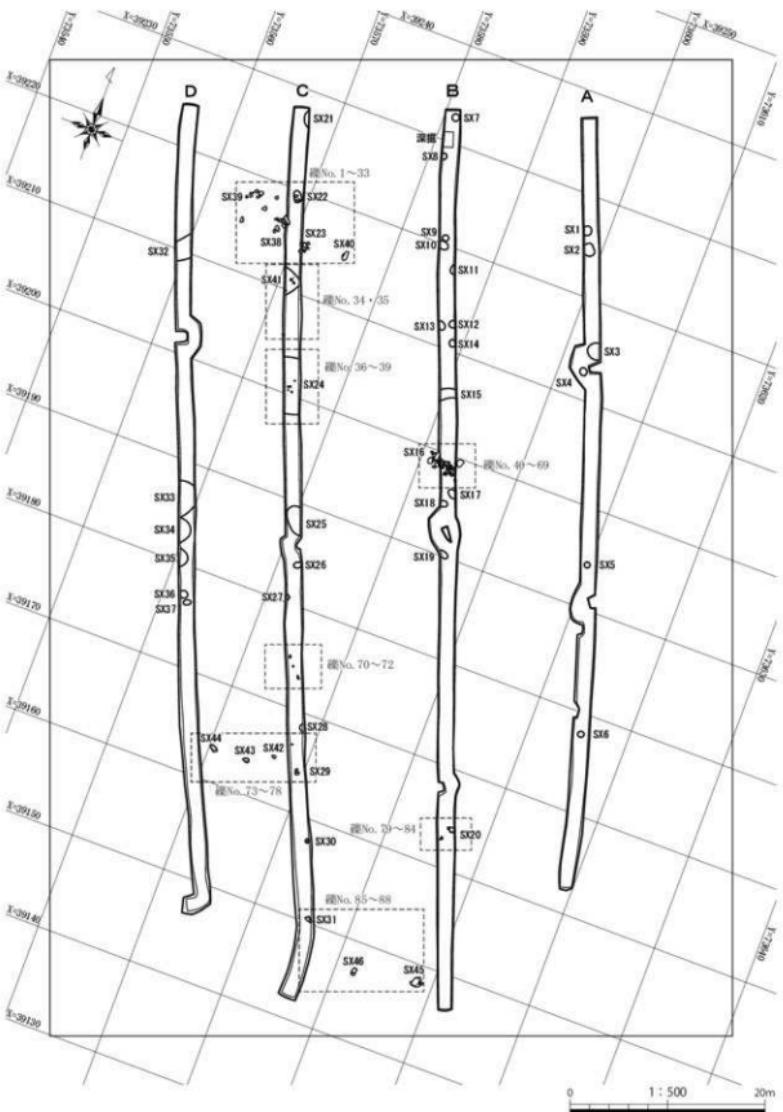
写真図版A 分析対象土器



第A図 曆年較正年代グラフ (cal BP、参考)



第B図 曆年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)



第6図 遺構配置図

VI. 試掘調査の成果

1. 検出された遺構

A～Dの4本のトレントを掘削し、検出された遺構について各トレントごとに記載した。

(1) Aトレント (第7図、写真図版9)

調査地東側に、1.5m×80mのトレントを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは22cm～49cmである。トレント内からは遺構プランが6基(SX1～6)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸178cm×短軸147cm以上(SX3)、小さいもので長軸61cm×短軸60cm(SX5)を測る。平面形状は円形ないし楕円形を呈する。

またトレントの南側で長辺80cmほどの大型の礫が検出された。石質は花崗閃緑岩で、被熱や加工の痕跡はない。重機掘削時に原位置から大きく動いたため、図化及び遺構番号の付与はしていない。

(2) Bトレント (第8図、写真図版10・11)

調査地中央東側に、1.5m×92mのトレントを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは7cm～40cmである。トレント内からは遺構プランが12基(SX7～15・17～19)、礫群が2基(SX16・20)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸93cm以上×短軸81cm(SX10)、小さいもので長軸66cm×短軸62cm(SX9)を測る。平面形状は概ね円形ないし楕円形を呈する。SX15は、長軸159cm以上×短軸113cmの溝状を呈し、両端はトレント外へ延びる。SX12は焼土を多量に含む。

礫群SX16は、長軸363cm×短軸235cmの範囲に30点の礫が集中する。礫集中範囲はトレント外にさらに続く可能性がある。礫は大型のもので長辺88cmを測る。石質は大半が花崗閃緑岩で、花崗閃緑斑岩を1点含む。礫8点に被熱による褐色ないしその可能性が認められ、2点に加工の痕跡が確認された。そのうち1点は欠損した石棒と考えられるもので、確認できた部分で径30cm以上を測る。また、礫群中央西寄りからは厚さ8cm、幅42cmを測る扁平な板状の礫3点がまとめて検出された(第15図50～52)。これらは同一個体とみられ、うち1点が直立する向きで地中に埋まっていることから、立石の上方が折れて倒壊しなったものと考えられる。

礫群SX20は、大型の礫1点の周辺に小型の礫5点が散在する。大型の礫は長辺83cmを測る。石質はすべて花崗閃緑岩で、そのうち1点は被熱による褐色が認められた。

トレント内の各所で炭化物が確認された。SX7の覆土には多くの炭化物が認められたため、試料採取して放射性炭素年代測定を実施した(炭化物試料②)。

(3) Cトレント (第9～11図、写真図版12～14)

調査地中央西側に、1.5m×92mのトレントを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは12cm～28cmである。トレント内からは遺構プランが9基(SX21・22・24～28・30・41)、礫群が4基(SX23・29・31・38)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸585cm×短軸144cm以上(SX24)、小さいもので長軸44cm×短軸29cm(SX30)を測る。平面形状は概ね円形ないし楕円形を呈するが、SX24・41は大部分がトレント外へ延びると考えられるため全体の形状は不明である。SX22は、大型の礫2点を含む土坑状のプランである。2点の礫は長辺56cm、39cmを測り、石質は花崗閃緑岩である。いずれも被熱による褐色が認められた。SX26～28は焼土を多量に含む。SX30・41では、ほぼ完形とみられる深鉢形土器が検出された(第11図)。今回の調査では遺構掘削調査未実施の

ため、これらの土器は現地保存とし、詳細な観察及び実測は行っていない。

礫群SX23は、長軸144cm×短軸114cmの範囲に8点の礫が集中する。礫集中範囲は、トレンチ外にさらに続く可能性がある。礫は大型のもので長辺49cmを測る。石質は花崗閃緑岩と花崗岩で、被熱及び加工の痕跡はない。礫群SX29は、2点の礫からなり、いずれも長辺38cmを測る。石質は花崗閃緑岩で、1点には被熱の可能性が認められた。礫SX31は、大型の礫1点で、長辺65cmを測る。石質は花崗岩で、被熱の可能性が認められた。礫群SX38は、長軸215cm×短軸144cmの範囲に10点の礫が集中する。礫は大型のもので長辺95cmを測る。石質はすべて花崗閃緑岩で、そのうち1点に被熱による褐色が認められた。

トレンチ内の各所で炭化物が確認された。SX25・41の覆土には多くの炭化物が認められたため、SX25で試料採取して放射性炭素年代測定を実施した(炭化物試料①)。

(4) Dトレンチ (第12図、写真図版14)

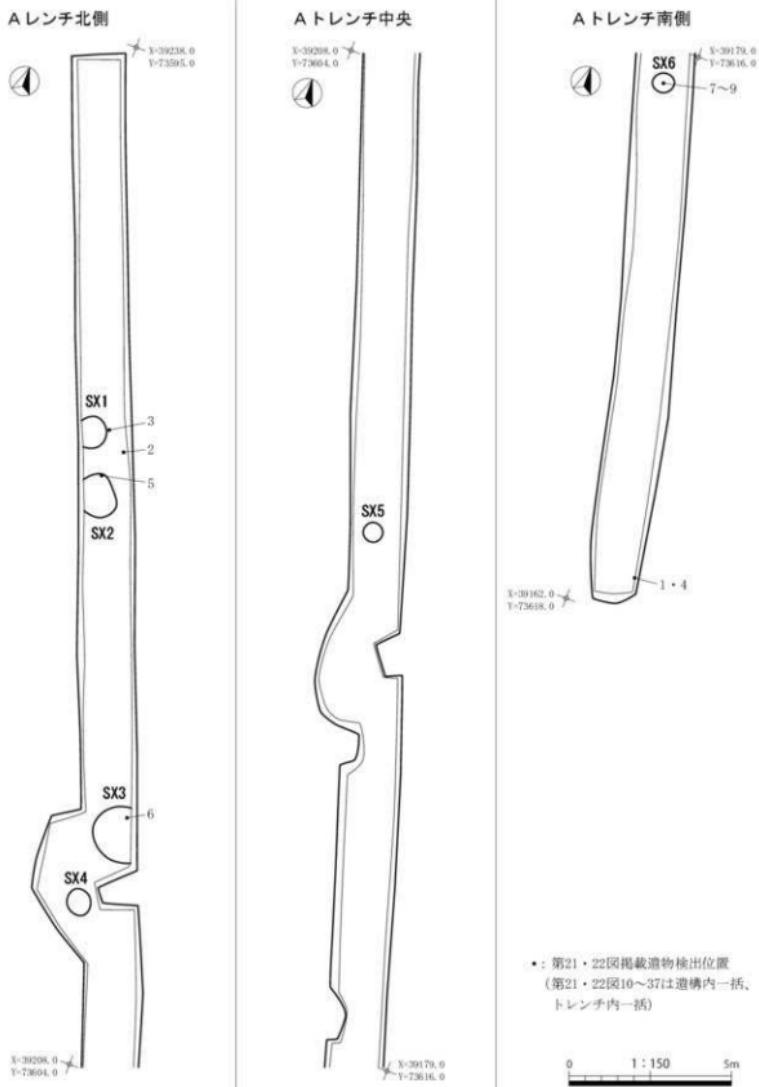
調査地西側に、1.5m×83mのトレンチを設定して掘削を行った。遺構確認面までの深さは26cm～35cmである。トレンチ内からは遺構プランが6基(SX32～37)検出された。

遺構プランの規模は、大きいもので長軸375cm×短軸143cm以上(SX33)、小さいもので長軸80cm×短軸54cm(SX37)を測る。平面形状は概ね円形ないし梢円形を呈するが、SX32は大部分がトレンチ外へ延びると考えられるため全体の形状は不明である。すべての遺構プランの覆土で炭化物が確認された。

(5) トレンチ外 (第8～10図、写真図版11・13・14)

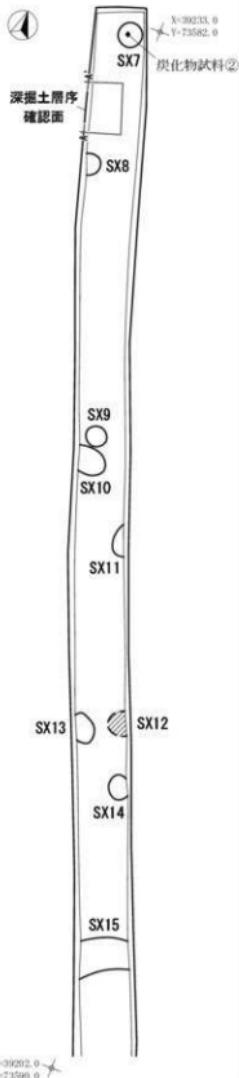
トレンチ外でも各所で地表面に露出する礫が散見されたため、調査及び記録を行った。B・Cトレンチ間で礫及び礫群が3基(SX40・45・46)、C・Dトレンチ間で礫及び礫群が4基(SX39・42～44)検出された。

礫群SX39は、長軸193cm×短軸87cmの範囲に7点の礫が集中する。礫は大型のもので長辺54cmを測る。石質は大半が花崗閃緑岩で、ホルンフェルスを1点含む。そのホルンフェルスは加工が認められ、石棒と考えられるもので一部欠損しているとみられ、残存部分で径14cm、長さ28cmを測る。被熱による褐色がみられる。礫群SX40は、大型の礫1点の周辺に小型の礫2点が散在する。大型の礫は、長辺105cmを測る。石質は、花崗閃緑岩2点とチャート1点で、被熱や加工の痕跡はない。礫SX42～46は、それぞれ単独の礫で長辺44～117cmを測る。石質はいずれも花崗閃緑岩で、SX44のみ被熱の可能性が認められた。また、遺構番号は付していないが、SX38・39間からも大型の礫3点が検出された。長辺34～60cmを測り、いずれも花崗閃緑岩で、被熱や加工の痕跡はない。

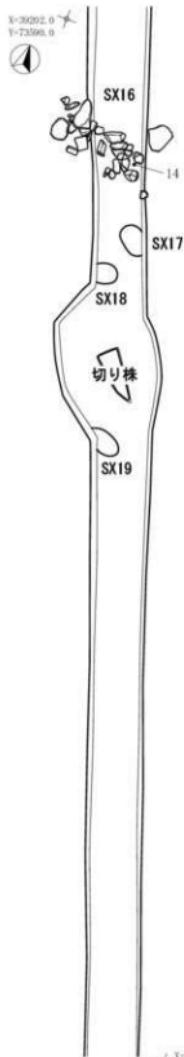


第7図 Aトレンチ

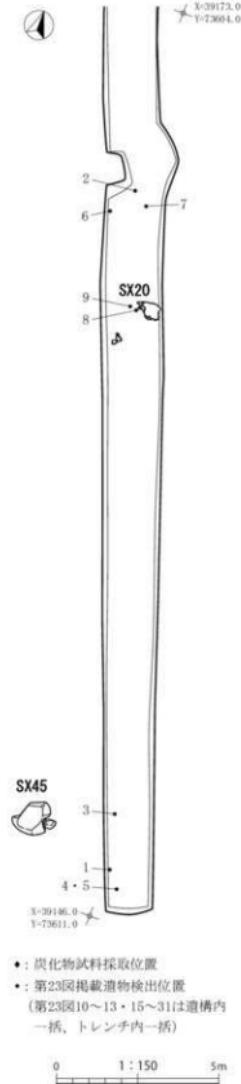
B トレンチ北側



B トレンチ中央



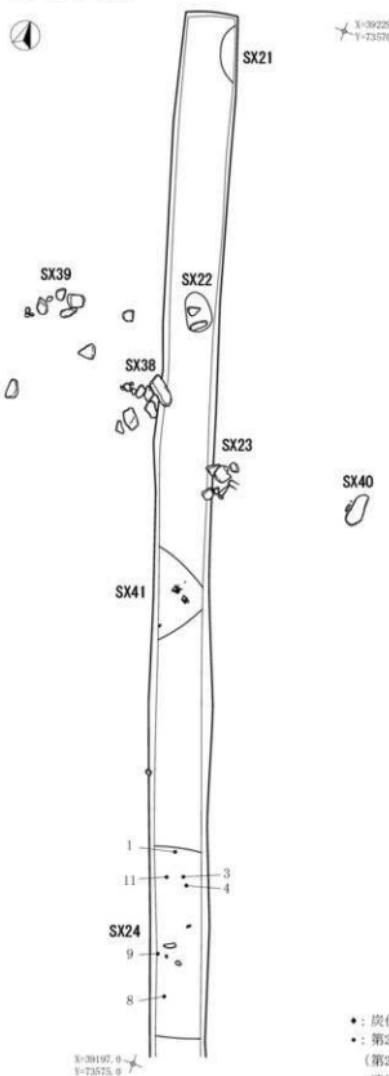
B トレンチ南側



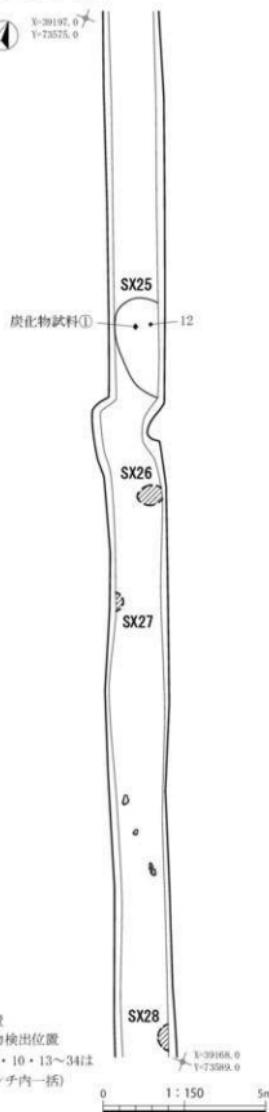
- : 炭化物試料採取位置 (Wear-resistant material sampling position)
- : 第23回掲載遺物検出位置 (Position of artifacts detected in the 23rd publication)
(第23回図10～13・15～31は遺構内一括。トレンチ内一括)

第8図 B トレンチ

C トレンチ北側



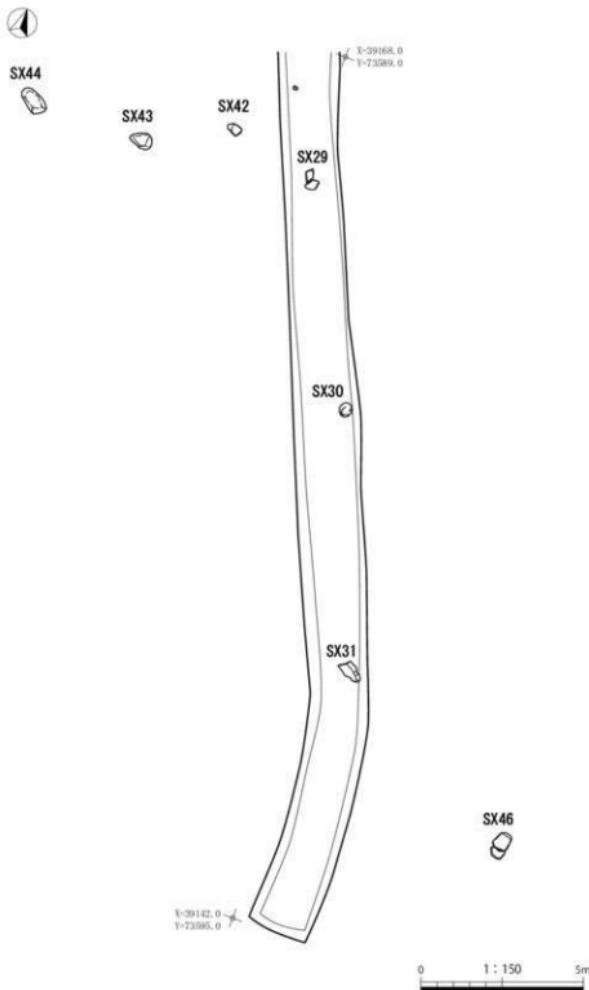
C トレンチ中央



●: 炭化物試料採取位置
●: 第24・25図掲載遺物検出位置
(第24・25図2・5~7・10・13~34は
遺構内一括、トレンチ内一括)

第9図 C トレンチ (1)

C トレンチ南側



第10図 C トレンチ (2)

SX30



X-39157. 0
Y-73591. 0

C トレンチ



X-39158. 5
Y-73593. 5

SX41



X-39209. 5
Y-73570. 5

C トレンチ



X-39213. 0
Y-73572. 0

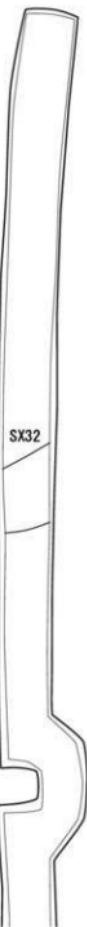
0 1 : 20 1m

第11図 C トレンチ SX30・41 土器検出図

D トレンチ北側



X:39196.0
Y:73558.0



D トレンチ中央



X:39196.0
Y:73564.0

SX33
1
5・6
2
8
SX34
SX35
SX36
9
SX37

X:39170.0
Y:73577.0

D トレンチ南側



X:39179.0
Y:73577.0



- : 第26・27図掲載遺物検出位置
(第26・27図3・4・7・10～25は
遺構内一括、トレンチ内一括)

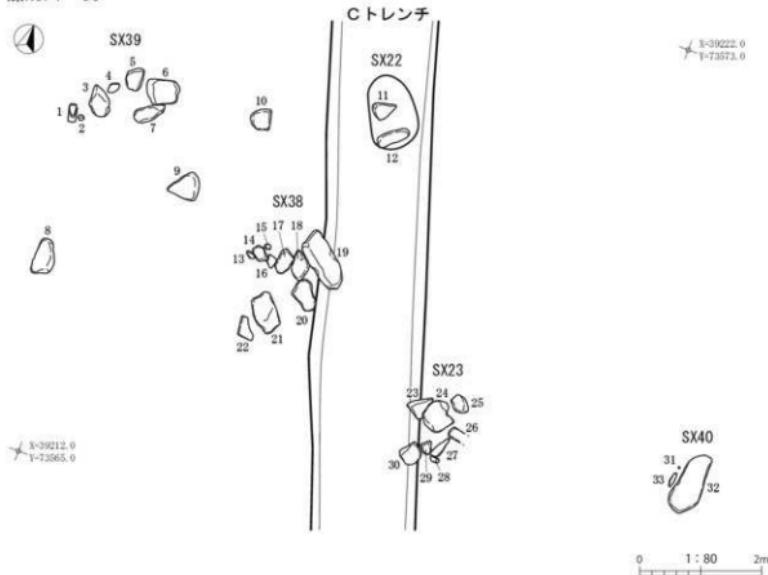
0 1:150 5m

第12図 D トレンチ

2. 磯の石質について

検出された磯群の石質については観察表に記した。花崗閃緑岩が最も多く、近辺の礫が多用されたようであるが、河口周辺から持ち込まれたとみられる礫もある。また、磨り痕跡が確認された礫、被熱の痕跡とみられる褐色部分を有する礫もある。

磯No. 1~33



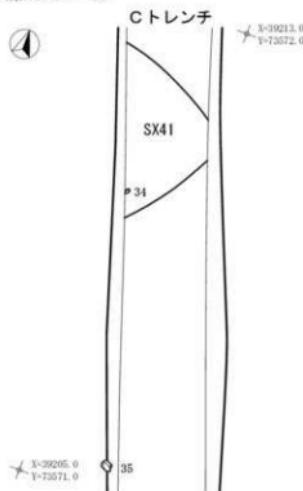
第13図 磯No. 1~33

磯 No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
1	C・D間	SX39	ホルンフェルス	八戸～種市／海岸付近	石棒 被熱の痕跡あり
2	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
3	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
4	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
5	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
6	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
7	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
8	C・D間	SX39	花崗閃緑岩	北上山地	
9	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
10	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
11	C	SX22	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
12	C	SX22	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
13	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
14	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
15	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
16	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	

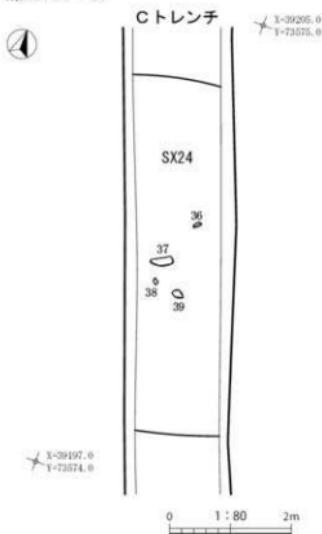
磯 No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
磯 No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
17	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
18	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
19	C	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
20	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
21	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
22	C・D間	SX38	花崗閃緑岩	北上山地	
23	C	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
24	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
25	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
26	B・C間	SX23	花崗岩	北上山地	
27	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
28	B・C間	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
29	B・C間	SX23	花崗岩	北上山地	
30	C	SX23	花崗閃緑岩	北上山地	
31	B・C間	SX40	チャート	種市西部	
32	B・C間	SX40	花崗閃緑岩	北上山地	
33	B・C間	SX40	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 磯の観察表（1）

礫No. 34・35



礫No. 36~39

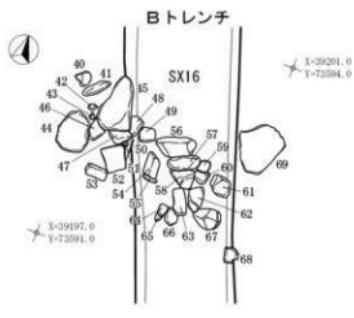


第14図 級No. 34~39

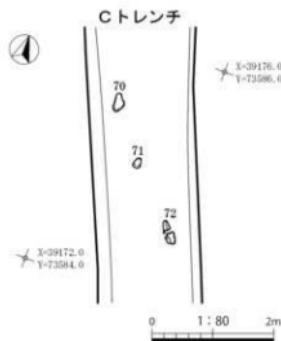
礫No.	トレンチ	遺構	石質	産地	備考
34	C	SX41	砂岩	海岸付近	
35	C		花崗岩	北上山地	
36	C	SX24	花崗岩	北上山地	
37	C	SX24	砂岩	海岸付近	
38	C	SX24	花崗閃緑岩	北上山地	
39	C	SX24	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり

第2表 級の観察表（2）

蝶No. 40~69



蝶No. 70~72



第15図 蝶No. 40~72

蝶No.	トレンチ	構造	石質	産地	備考
40	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
41	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	河口周辺で採取か
42	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
43	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
44	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
45	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
46	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
47	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
48	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
49	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
50	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 51・52 と同一個体か
51	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 淀と同一個体
52	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり 51 と同一個体
53	B・C 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
54	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
55	B	SX16	花崗閃緑斑岩	北上山地	磨り痕跡あり
56	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
57	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
58	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
59	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
60	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
61	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
62	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
63	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
64	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
65	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
66	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
67	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
68	B	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	石棒の可能性あり
69	A・B 間	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
70	C	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
71	C	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	
72	C	SX16	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり

第2表 蝶の観察表（3）

礫No. 73~78

D トレンチ



SX44



X=39161.0
Y=73581.0

SX43



SX42



C トレンチ

73

SX29

77

78

X=39168.0
Y=73589.0

0

1 : 80

2m

第16図 矶No. 73~78

礫No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
73	C		花崗閃緑岩	北上山地	
74	C・D間	SX44	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり
75	C・D間	SX43	花崗閃緑岩	北上山地	
76	C・D間	SX42	花崗閃緑岩	北上山地	
77	C	SX29	花崗閃緑岩	北上山地	
78	C	SX29	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の可能性あり

第2表 矶の観察表 (4)

礫No. 79~84



B トレンチ

SX20



80



81



82



83



84

X=39162.0
Y=73604.0

X=39165.0
Y=73607.0

0

1 : 80

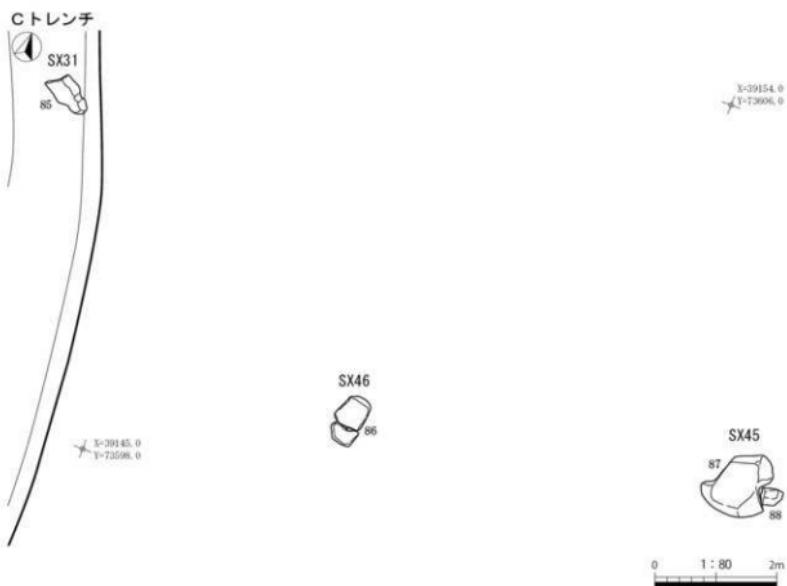
2m

第17図 矶No. 79~84

礫No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
79	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
80	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	被熱の痕跡あり
81	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
82	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
83	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	
84	B	SX20	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 矶の観察表 (5)

礫No. 85~88



第18図 磕No. 85~88

礫 No.	トレンチ	造構	石質	産地	備考
85	C	SX31	花崗岩	北上山地	波照の可能性あり
86	B + C 間	SX46	花崗閃緑岩	北上山地	
87	B + C 間	SX45	花崗閃緑岩	北上山地	
88	B + C 間	SX45	花崗閃緑岩	北上山地	

第2表 磕の観察表 (6)

3. ハンドボーリング調査

A～Dの4本のトレンチ調査の結果、既述のとおり礫群の存在が確認された。また、礫は地表面での確認でもさらに調査区周辺に広がることが考えられたため、礫の存在確認のためハンドボーリング棒を使用して調査を行った。調査はA～Dトレンチの間の範囲にて行い、トレンチ内で確認された礫の傾向性から直線的に数条存在することが想定されたため、その延長線上を集中的に調査した。ことにBトレンチ中央のSX16とCトレンチ北側のSX38を結ぶライン上には、多くの礫の存在が考えられた。

調査に当たっては、A・Bトレンチ間を①区域、B・Cトレンチ間を②区域、C・Dトレンチ間を③区域と分けた。また、礫が想定された各トレンチに斜交するラインを北から④区域、⑤区域、⑥区域とした。そして、ハンドボーリング棒の刺突間隔を礫の直線的な配置が考えられた④・⑤・⑥区域は30cm間隔、その他の場所は50cm間隔として調査した。また、Cトレンチに沿った北側部分は、15cm間隔とした。

それぞれの区域でその定めた間隔ごとにハンドボーリング調査を行い、礫の感触があった場合数度の刺突を繰り返し礫の存在を確認した。また、礫の存在が確認された場合その周辺も集中的に探査した。なお、Aトレンチの東側及びDトレンチの西側は急傾斜地となっており作業の危険性があるためハンドボーリング調査の対象外とした。

A・Bトレンチ間の①区域では、北側部分の礫の存在は希薄であった。①区域と④区域が重なる部分から南側では礫の存在を比較的多く把握した。

B・Cトレンチ間の②区域では、北側部分の礫の存在は希薄であるが、④区域と交差する部分では多くの礫の存在を把握した。②区域中央部、④区域と⑤区域の間ではやや多くの礫の存在を把握した。②区域の南端部分では非常に多くの礫の存在を把握した。

C・Dトレンチ間の③区域では、④区域との交差する部分において非常に多くの礫の存在を把握した。その南の⑤区域までの間は、若干希薄にはなるものの礫の存在は認められた。③区域と⑤区域の交差する部分においては、非常に多くの礫の存在を把握した。さらに、③区域の南端部分においても多くの礫を把握した。

斜行する④区域では、北西部で非常に多くの礫の存在が把握され、南東側でも多くの礫を把握した。②区域と交差する中央部分は礫の存在がやや希薄となる。

⑤区域では、北西部で極めて多くの礫を把握した。②区域と交差する部分では、礫の存在が希薄となる。南東部分では数箇所で礫の存在を把握した。

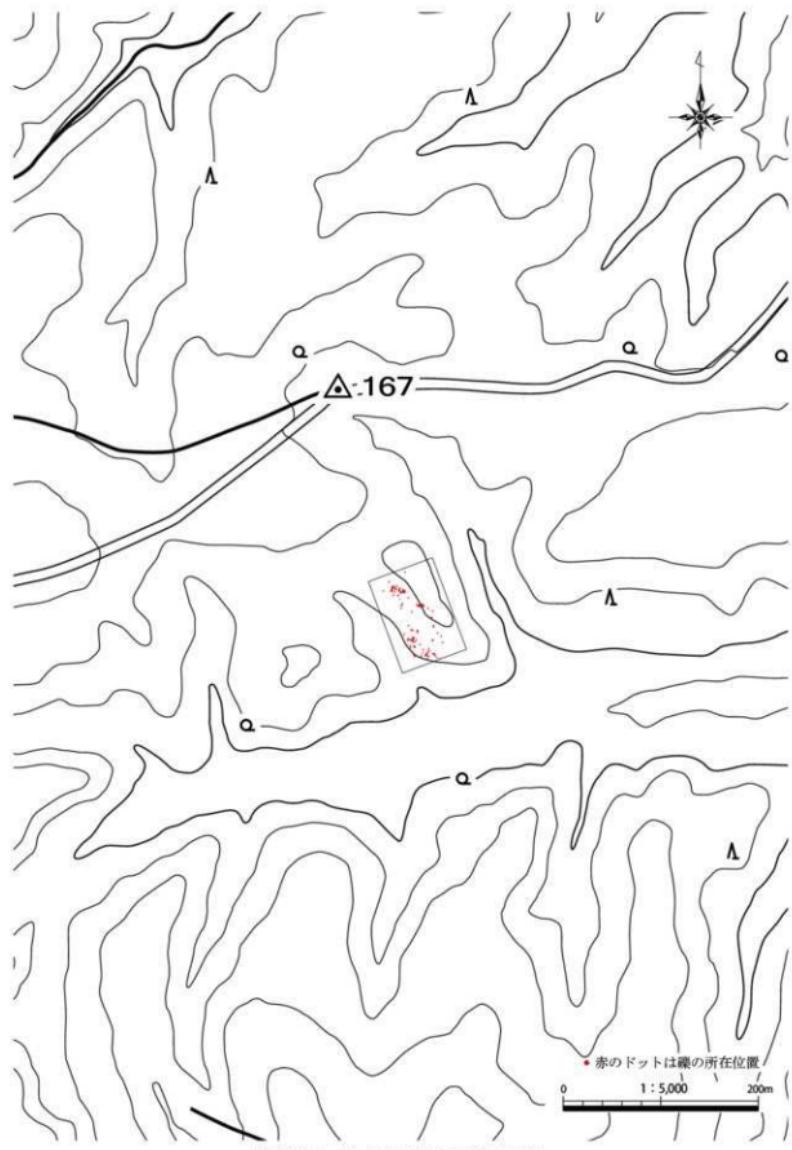
⑥区域では、①区域と交差する部分で礫の存在は把握されていないが、中央から北西側では非常に多くの礫が把握された。

全体的な傾向としては、②区域で非常に表土が薄く、また土壌の硬化も進んだ状況であった。尾根の頂部では、土壌流出が進んでいるものと思われた。また、④区域全体、⑤区域北西側、⑥区域中央部が特に礫の存在が顕著な場所として注目される。

結果として、ハンドボーリング調査では地表面に露頭しているものを除き合計83箇所から礫と考えられるものの感触を得、その分布にも一定の傾向があることが想定された。



第19図 ハンドボーリング調査成果図



第20図 地中及び地表の磐の位置

4. 検出された遺物

(1) 土器、土製品

検出された土器、土製品の総数は2,784点である。試掘調査であり、遺構の掘削を伴わないので、遺物は表土若しくは遺構確認面から検出された。調査区西側での検出量が多い。

①Aトレンチ（第21・22図、写真図版15・16）

トレンチ内からは縄文土器558点、土製品3点が検出された。第21図1～4は遺構確認面で検出された。1は2本の沈線による三角形状の区画文である。4は深鉢形土器の胴下半部である。6はSX3から検出された磨消縄文である。7～9はSX6から検出された。8は沈線と撚紐の押捺によって格子目状の文様が施文される。10は波状口縁を呈する。口縁に並行する降線が波頂部で円形をなす。11～13は2ないし3本を単位とする溝状、弧状の沈線文である。14・15は細い沈線による文様である。18は浮線的な帶縄文である。第22図23・24は波状入組み文である。25は撚紐の押捺による区画をもつ半粗製の深鉢形土器である。26は撚紐を2条横位に押捺する。27は羽状縄文である。28・29は撚糸文、横位の沈線が施文される。31～34は網目状撚糸文である。36は内面文様が施文される。沈線は曲線を主体とし、円形剥突文が沿う。異形の鉢形土器と考えられる。37は円盤状土製品である。

②Bトレンチ（第23図、写真図版16）

トレンチ内からは縄文土器244点、土製品2点が検出された。第23図1～9は遺構確認面で検出された。1は外反する口縁部の内外面に、縦位に沈線が施文される。さらに外面では縦位に、内面では口縁に並行する沈線に沿う円形剥突文が施文される。円形剥突文は、口唇部にも加えられる。5は地文縄文に3本一単位の沈線によって入組文が施文される。8は輪積み痕の残る深鉢形土器である。10～16はSX16から検出された。10は格子目状沈線文、13は桶歯状沈線文である。17には縦位の降線が貼付される。18～21は帶縄文である。22・23は撚紐の押捺によって口縁部に無文帯をもつ。胸部には、22はLR縄文が、23は網目状撚糸文が施文される。24～26は網目状撚糸文、27～29は縄文が施文される深鉢形土器である。31は錐形土製品である。錐部分は欠損する。

③Cトレンチ（第24・25図、写真図版17）

トレンチ内からは縄文土器568点、土製品2点が検出された。第24図1～11はSX24から検出された。1は3本一単位の沈線で文様が施文される。2～7は帶縄文である。8～11は撚糸文、網目状撚糸文、縄文が施文される深鉢形土器である。12・13はSX25から検出された。13には横位の降線が貼付される。14～17は2ないし3本を単位とする沈線で文様が施文される。18は逆S字状の沈線文である。20～22は、地文縄文に沈線による文様が施文される。20は沈線による区画の内側に満巻き状の文様を縦位に配している。25・26は撚紐が押捺される。第25図27は口縁部の内外面に縦位に撚紐が押捺される。28は撚紐を押捺する。29は網目状撚糸文、30は撚糸文である。31は折り返し口縁をもつ深鉢形土器であり、口縁部と胴部で羽状に縄文が施文される。32は底部に木葉痕が残る。33は円盤状土製品である。34は不明土製品である。早期の深鉢形土器の尖底部の可能性もある。

④Dトレンチ（第26・27図、写真図版18）

トレンチ内からは縄文土器864点、土製品3点が検出された。第26図1～7はSX33から検出された。4～7は粗製深鉢形土器である。8はSX34から検出された網目状撚糸文である。9はSX37から検出された。2本の沈線間にやや浮線化している。13は格子目状沈線文である。14は口縁部に緩やかな波状の突起をもつ。第27図15は波頂部に縦長の瘤を貼付し、撚紐を押捺する。16は折り返し状の口縁に羽状の縄文が、口縁内面にも縄文が施文される。17は撚糸文、18・19は縄文が施文される深鉢形土器である。20・21は撚紐の押捺によって口縁部に無文帯をもつ。24・25は網目状撚糸文である。

⑤トレンチ外（第28図、写真図版19）

トレンチ外からは縄文土器7点が検出された。第28図1・2はSX39から検出された。1は帶縄文が波状に施文される。2は網目状撚糸文である。

⑥調査地内（第29図、写真図版19）

調査地内からは縄文土器517点、土製品16点が採集された。第29図1～5は帶縄文である。3はクランク状の帶縄文である。6～9は無文地に沈線で文様が施文される。9は平行沈線に蛇行沈線が垂下する。13は折り返し口縁である。14～16は土製品である。14・15はミニチュアの壺形土器である。16はキノコ形土製品又はスタンプ形土製品と考えられ、軸(柄)の部分が欠損している。傘部分は比較的平らな形状であり、上面には円形刺突文を五角形に配し、中心の円形刺突文とそれぞれを結ぶように沈線が施文されている。

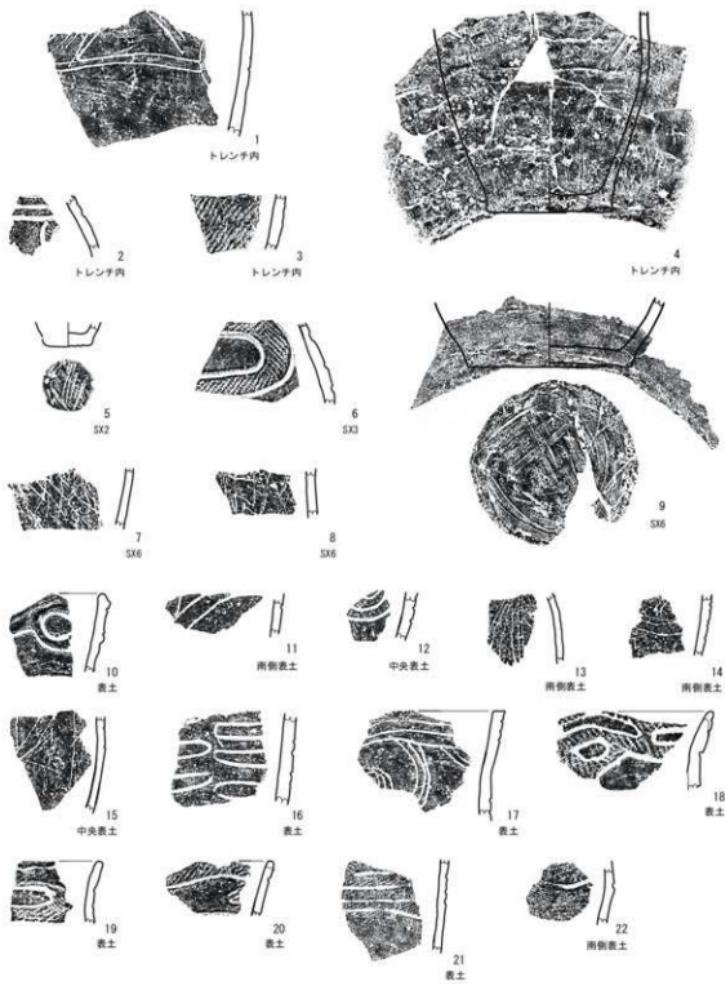
以上、今回の試掘調査で検出、採集された縄文土器は後期前葉から中葉に位置づけられるものが多い。

（2）石器、石製品（写真図版20～22）

検出、採集された石器、石製品の総数は147点である。Aトレンチからは打製石斧4点、磨製石斧11点、敲石9点、磨石5点、石皿1点、礫器2点、楔形石器1点、石核1点、石刀1点が検出された。Bトレンチからは打製石斧1点、磨製石斧4点、敲石3点、磨石2点、礫器1点が検出された。Cトレンチからは打製石斧2点、磨製石斧7点、敲石7点、磨石5点、楔形石器4点、石核2点が検出された。Dトレンチからは打製石斧6点、磨製石斧13点、敲石19点、磨石3点、台石1点、礫器1点、楔形石器1点、石核4点、石刀1点が検出された。

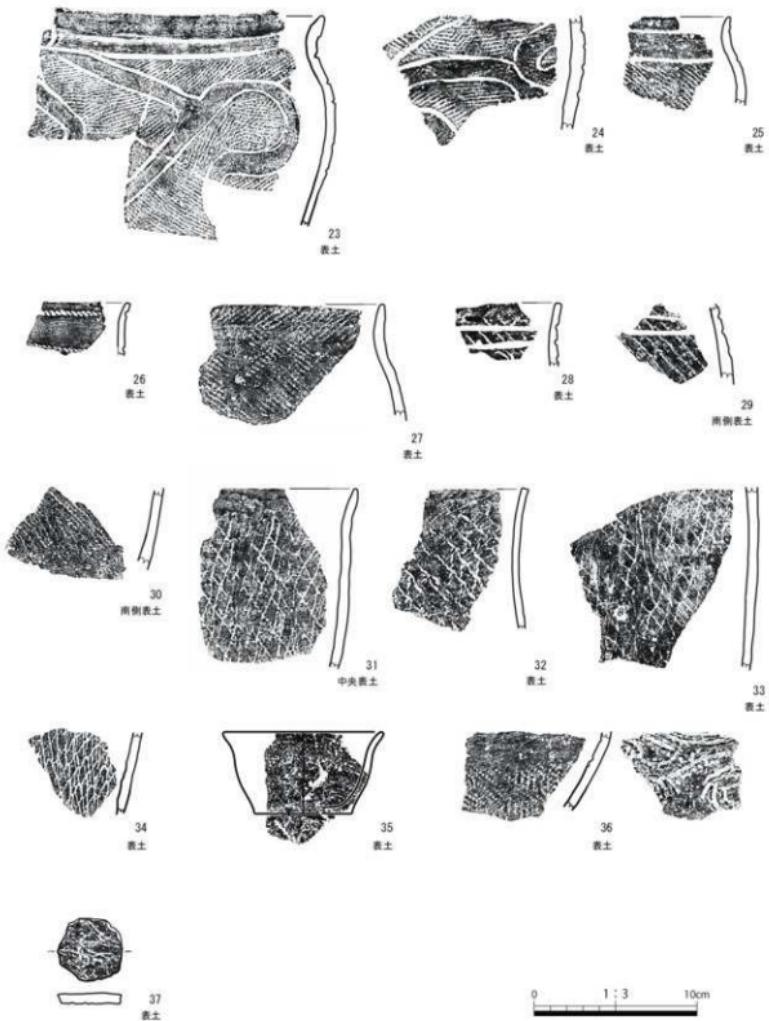
トレンチ外のSX39からは磨製石斧1点が検出された。また、調査地内からは打製石斧5点、磨製石斧3点、磨石1点、楔形石器1点、石鐵の未製品1点が検出された。そのほか加工痕を有する礫1点が表面採集された。

器種毎の点数は打製石斧18点、磨製石斧43点、敲石46点、磨石16点、礫器4点、石皿と台石が各1点と礫石器が多い。また剥片石器は、楔形石器7点、石鐵の未製品1点、石核7点と少ない。

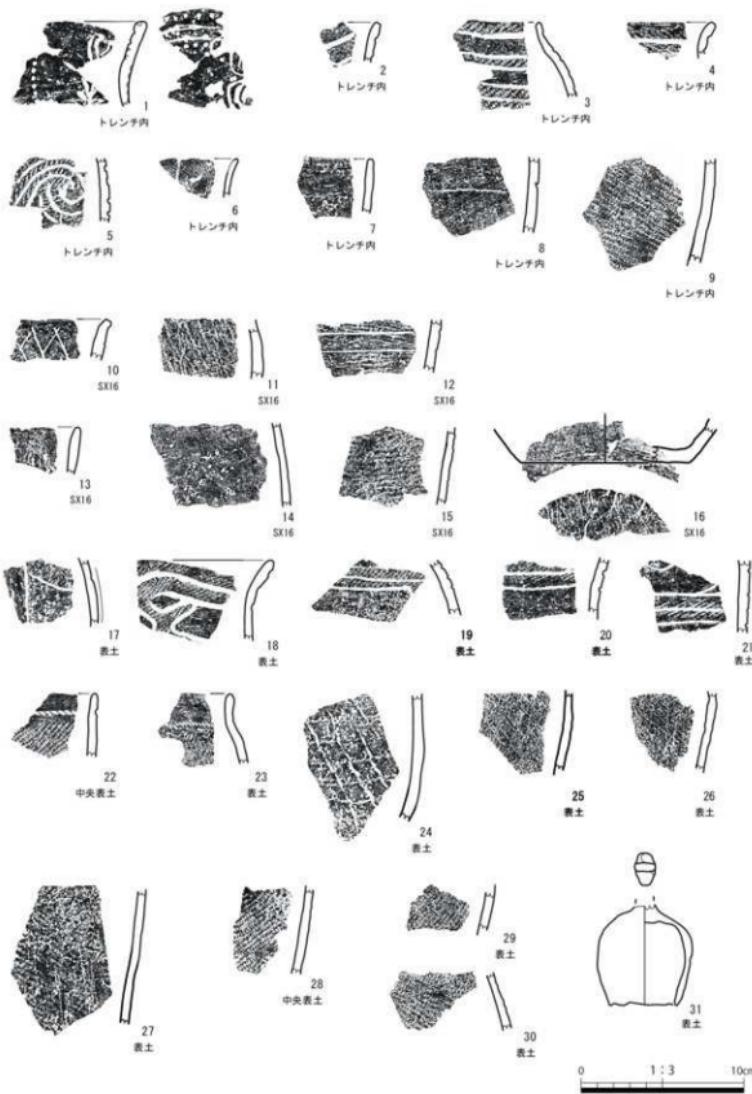


0 1 : 3 10cm

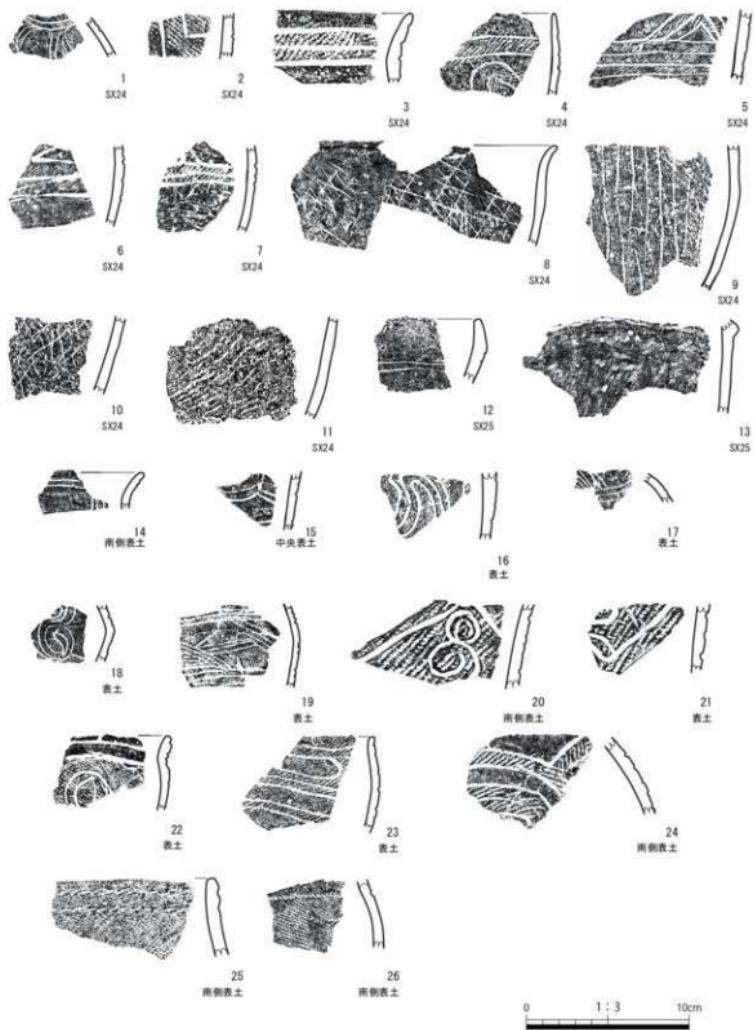
第21図 A トレンチ 検出土器



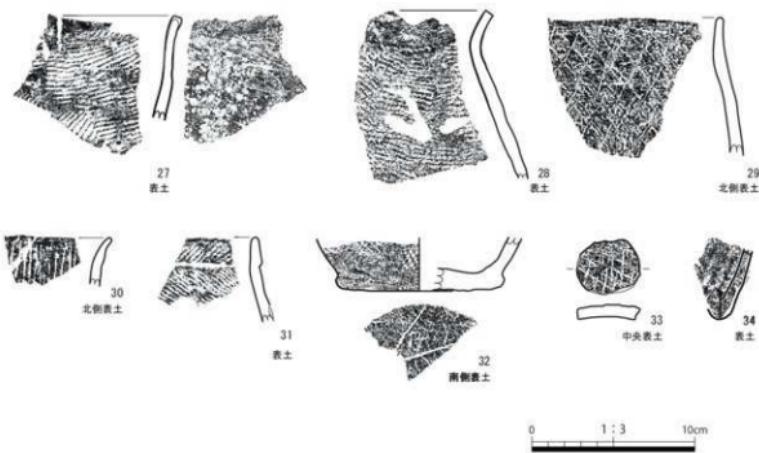
第22図 Aトレンチ 検出土器・土製品



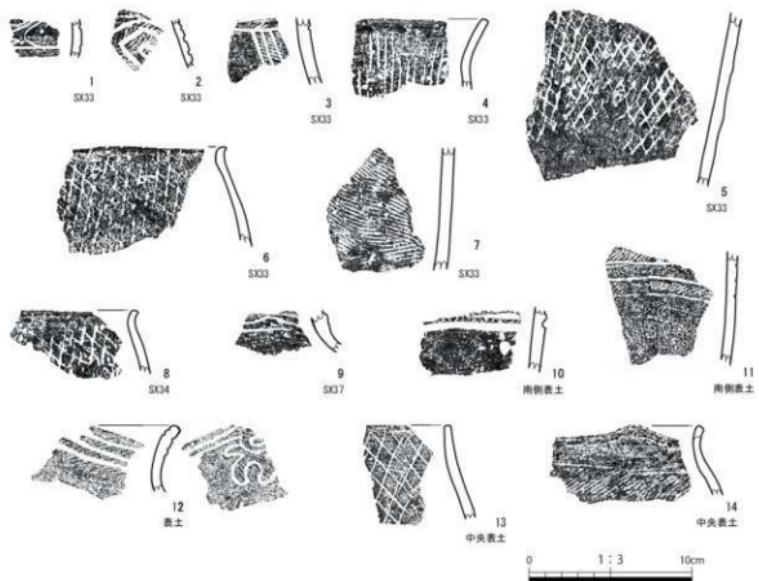
第23図 B トレンチ 検出土器・土製品



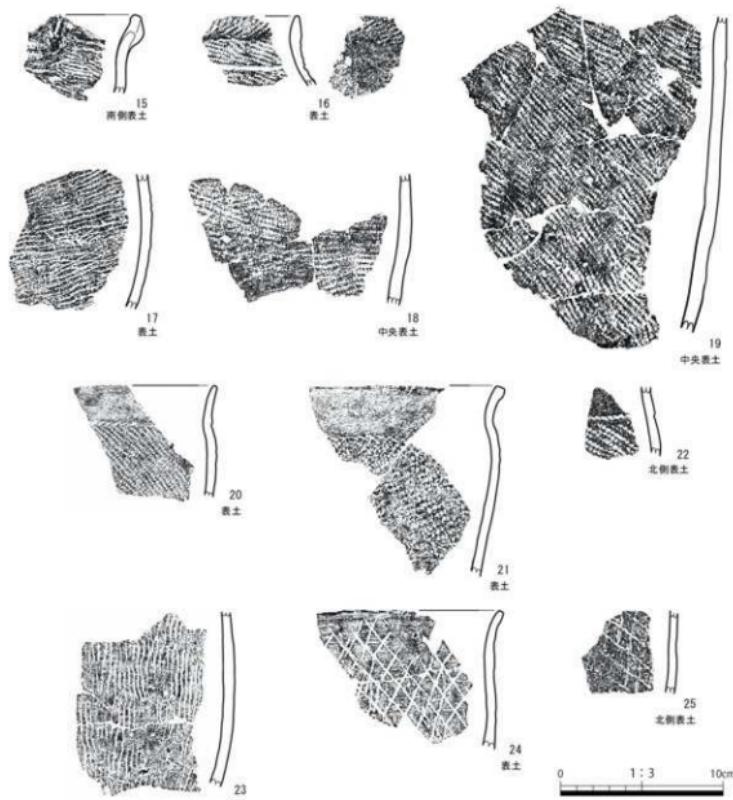
第24図 Cトレンチ 検出土器



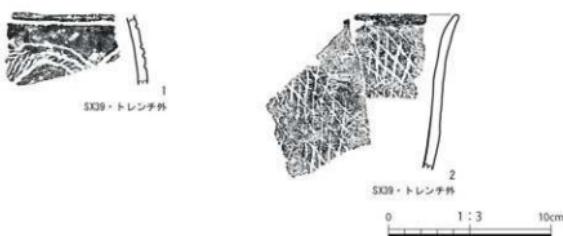
第25図 Cトレンチ 検出土器・土製品



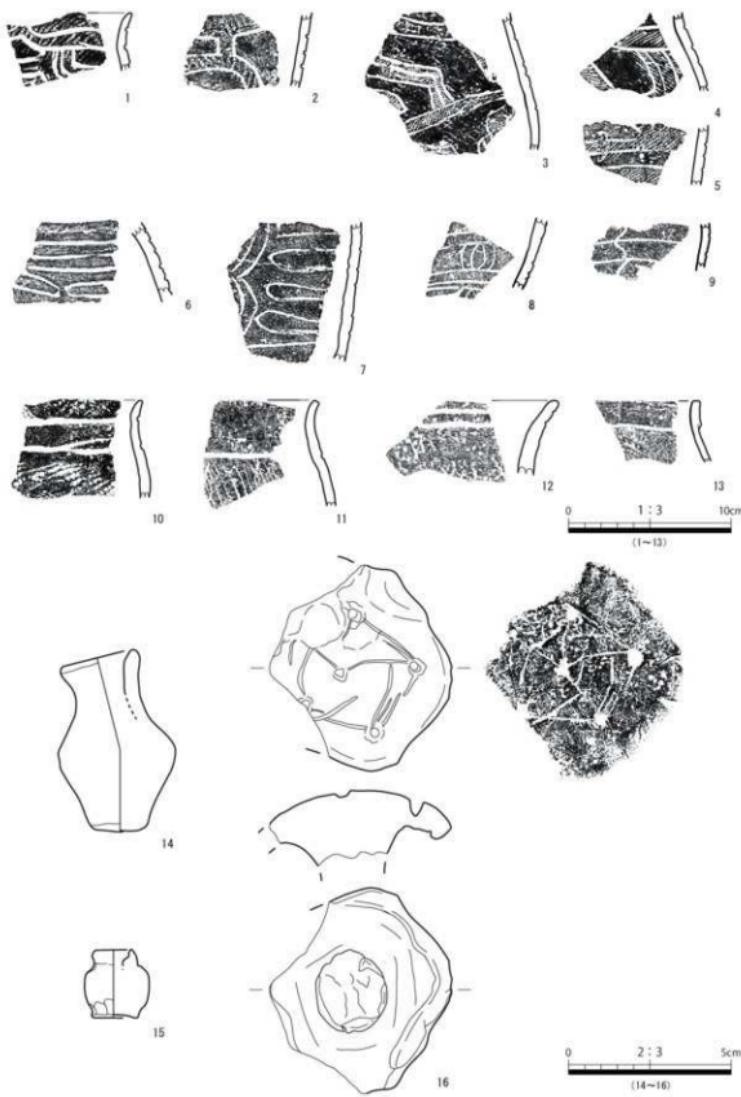
第26図 Dトレンチ 検出土器（1）



第27図 Dトレンチ 検出土器（2）



第28図 トレンチ外 検出土器



第29図 調査地内 検出土器・土製品

番号	検出部位	器種・部位	文様等	断土	遺存状況	器 壁 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
A.トレンチ (第 21-22 図、写真図版 15・16 上)									
1	トレンチ内	深鉢 鉢底	2 本の沈縫による三角形状の区画文 横縫の 沈縫を切る弧縫	砂縫・砂 粒含む	良好	7.0	GTR-8 明赤褐色	STRS-8 明赤褐色	
2	トレンチ内	深鉢 鉢底	3 本の横縫の沈縫。縦位の 2 本の弧縫 沈縫 間にねじり文	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/7 にぶい、黄褐色	10YR6/7 にぶい、黄褐色	
3	トレンチ内	深鉢 鉢底	L 無筋横縫	砂縫 砂粒含む	良好	7.0	10YR5/6 にぶい、黄褐色	10YR5/6 にぶい、黄褐色	
4	トレンチ内	深鉢 鉢底～底部	無縫	砂縫・砂 粒含む	良好	11.0	7.5YR6/4 にぶい、黒褐色	10YR6/4 にぶい、黒褐色	内外面化物付着 輪縁み瓶
5	S32	深鉢 鉢底	無縫	砂粒含む	良好	8.0	10YR7/4 にぶい、黄褐色	10YR7/2 灰黄褐色	表面に整形痕
6	S33	直 鉢底	LK 横位・縱位。沈縫、崩消	砂縫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/3 にぶい、黄褐色	10W2/1 黒色	
7	S36	深鉢 鉢底	網目状燃え文	砂縫・砂 粒含む	良好	5.0	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	外外面化物付着 内面一部剥離
8	S36	深鉢 鉢底	沈縫、燃焼の押捺	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR4/2 灰黄褐色	10YR3/2 灰黄褐色	
9	S36	深鉢 鉢底	無縫	砂縫・砂 粒含む	良好	9.5	GTR-4 にぶい、赤褐色	10W2/2 灰黄褐色	表面に整形痕
10	表土	深鉢 口縫部	穂やかな波状 口縫に沿った隆縫が波浪部で △形位を呈する 隆縫に沿う沈縫	砂縫 砂粒含む	良好	5.5	7.5YR6/6 細色	7.5YR6/6 細色	
11	南側表土	深鉢 鉢底	横位に 2 本の弧縫の沈縫、縦位の 1 本の弧縫	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/2 灰黄褐色	10YR3/1 黒褐色	
12	中央表土	深鉢 鉢底	3 本の弧縫の沈縫	砂縫・砂 粒含む	良好	6.5	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい、黄褐色	
13	南側表土	深鉢 鉢底	3 本の横縫の沈縫の左右に 3 本・1 本の沈縫 によるねじり文	砂縫・砂 粒含む	良好	4.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	
14	南側表土	深鉢 鉢底	2 本の沈縫	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/6 明赤褐色	10YR5/3 にぶい、黄褐色	
15	中央表土	深鉢 鉢底	2 本の沈縫	砂縫 砂粒含む	良好	5.0	7.5YR6/6 細色	10YR7/4 にぶい、黄褐色	内面一部剥離
16	表土	深鉢 鉢底	五一引違いの芯位状の区画文	砂縫・砂 粒含む	良好	8.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 明黄褐色	
17	表土	深鉢 口縫部	穂やかな波状 3 本・単位の口縫に並行する 沈縫と張形の沈縫	砂縫 砂粒含む	良好	8.0	10YR7/3 にぶい、黄褐色	10YR7/3 にぶい、黄褐色	
18	表土	深鉢 口縫部	穂やかな波状 沈縫、R. 横位・斜位	砂縫・砂 粒含む	良好	9.0	10YR7/4 にぶい、黄褐色	10YR7/4 にぶい、黄褐色	
19	表土	深鉢 口縫部	沈縫、LK 横位	砂縫 砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
20	表土	深鉢 口縫部	押捺により反張状を呈する穂やかな波状 口 縫に沿った沈縫、LK 横位	砂縫 砂粒含む	良好	5.0	10YR6/6 にぶい、黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	
21	表土	深鉢 鉢底	4 本の横縫の沈縫、LK 横縫	砂縫・砂 粒含む	良好	5.0	10YR5/5 にぶい、黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	外外面化物付着 内面一部剥離
22	南側表土	深鉢 鉢底	沈縫、LK 文	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい、黄褐色	
23	表土	深鉢 口縫部～鉢底	折り返し口縫 部位:LK 横位・縱位・斜位。 沈縫、R. 横位、崩消	砂縫・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR7/4 にぶい、黄褐色	輪縁み瓶
24	表土	深鉢 鉢底	LK 横位・縱位・斜位、沈縫、崩消	砂縫・砂 粒含む	良好	9.0	10YR6/6 明黄褐色	10W2/6 明黄褐色	輪縁み瓶
25	表土	深鉢 口縫部～鉢底	2 条の横縫の押捺 部位: LK 横位	砂縫 砂 粒含む	やや 崩滅	6.0	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	
26	表土	深鉢 口縫部	2 条の横縫の押捺	砂縫 砂 粒含む	良好	4.5	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR6/3 にぶい、黄褐色	
27	表土	深鉢 口縫部～鉢底	LK 横位・縱位	砂縫 砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい、黄褐色	
28	表土	深鉢 口縫部	崩系文、3 本の横縫の沈縫	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR7/4 にぶい、黄褐色	外外面化物付着
29	南側表土	深鉢 鉢底	崩系文、3 本の横縫の沈縫	砂縫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	
30	南側表土	深鉢 鉢底	崩系文	砂縫・砂 粒含む	良好	7.5	10YR5/6 にぶい、黄褐色	10YR5/7 にぶい、黄褐色	輪縁み瓶
31	中央表土	口縫部～鉢底	網目状燃え文	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/4 にぶい、赤褐色	10YR5/1 褐灰色	輪縁み瓶
32	表土	深鉢 口縫部～鉢底	網目状燃え文	砂縫 砂 粒含む	良好	5.0	10YR7/2 にぶい、黄褐色	10YR7/3 にぶい、黄褐色	
33	表土	深鉢 鉢底	網目状燃え文	砂縫・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい、黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	
34	表土	深鉢 鉢底	網目状燃え文	砂縫・砂 粒含む	良好	6.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	外外面化物付着 内面一部剥離
35	表土	林 口縫部～底部	無文	砂縫 砂 粒含む	良好	5.5	10YR6/3 にぶい、黄褐色	10YR6/3 にぶい、黄褐色	
36	表土	林 鉢底	外側: LK 横位 内側: 沈縫に沿った円形剥離文	砂縫 砂 粒含む	良好	6.0	7.5YR5/6 明褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	外外面化物付着

第 3 表 土器・土製品観察表 (1)

番号	検出位置	記種・部位	文様等	新土	遺存状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外側	内面	
37 表土	円錐状土製品	無文	無密 砂織・砂粒含む	良好	6.5	10VR6/4 にぶい黄褐色	10VR7/4 にぶい黄褐色		

Bトレンチ (第23図、写真図版16下)

1. トレンチ内	深鉢 口縁部	外縁 極位の円形刺突列 極位の沈線に斜位の のぼり式沈線 内面 口縁に沿う2本の沈線、2本の極位の 沈線 沈線に沿う円形刺突文 口脇部 円形刺突文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	7.0	10VR5/4 にぶい黄褐色	10VR6/4 にぶい黄褐色		
2. トレンチ内	深鉢か 口縁部	斜位に並行する2本の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.5	7.5VR6/6 褐色	7.5VR6/4 にぶい褐色		
3. トレンチ内	深鉢か 口縁部	穠やかな波状 極位の沈線、LR横位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.5	2.5VR5/3 にぶい褐色	2.5VR5/2 赤褐色		
4. トレンチ内	深鉢か 口縁部	LR 極位、2本の横位の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	10VR6/2 灰黃褐色	10VR6/4 にぶい黃褐色		
5. トレンチ内	深鉢か 胴部	LR 横位、3本一単位の渦巻き状の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	7.5VR6/6 褐色	7.5VR6/6 明褐色		
6. トレンチ内	深鉢か 口縁部	LR 横位	無密 砂粒含む	良好	3.5	10VR5/6 黃褐色	10VR5/6 黃褐色		
7. トレンチ内	深鉢 口縁部	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.0	10VR4/1 褐色	10VR4/3 にぶい黃褐色	輪積み底		
8. トレンチ内	深鉢 胴部	無密 砂織・砂 粒含む	良好	7.0	10VR5/2 灰黃褐色	10VR5/2 灰黃褐色	輪積み底		
9. トレンチ内	深鉢 胴部	LR 極位	無密 砂粒含む	良好	7.0	7.5VR6/4 にぶい褐色	7.5VR6/4 にぶい褐色		
10. SX16	深鉢 口縁部	格子目状沈線文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	7.0	10VR5/2 灰黃褐色	10VR6/6 明褐色		
11. SX16	深鉢か 胴部	網目状渦巻文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	7.0	10VR5/2 灰黃褐色	10VR5/4 にぶい黃褐色		
12. SX16	深鉢か 胴部	3本の極位の沈線、LR 斜位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.5	10VR5/6 明褐色	10VR5/4 にぶい黃褐色		
13. SX16	深鉢か 口縁部	網目状渦巻文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	7.5VR4/1 褐色	7.5VR5/6 褐色		
14. SX16	深鉢 胴部	無密 砂粒含む	良好	5.0	7.5VR6/4 にぶい褐色	7.5VR5/4 にぶい褐色			
15. SX16	深鉢 胴部	LR 極位・斜位	無密 砂粒含む	良好	5.0	7.5VR6/6 褐色	10VR2/2 黒褐色	外表面化物付着	
16. SX16	深鉢か 底部	無密 砂粒含む	良好	9.0	7.5VR5/4 にぶい褐色	7.5VR5/1 褐色	底面に彫型瓶		
17. 表土	深鉢 胴部	垂下する2本の沈線の間に埋線 2本の弧状の沈線	無密 砂粒含む	良好	5.5	10VR6/3 にぶい黃褐色	10VR6/4 にぶい黃褐色		
18. 表土	深鉢 口縁部	穠やかな波状 沈線、LR 横位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	7.5VR6/6 褐色	7.5VR6/6 褐色		
19. 表土	深鉢 胴部	3本の極位の沈線、LR 横位 下端の沈線は丁 字形に屈折	無密 砂粒含む	良好	6.0	10VR5/2 灰黃褐色	10VR5/3 にぶい黃褐色		
20. 表土	深鉢 胴部	2本の極位の沈線、LR 横位	無密 砂粒含む	良好	6.0	10VR5/4 にぶい黃褐色	10VR5/4 にぶい黃褐色	外表面一部剥離	
21. 表土	深鉢 胴部	3本の極位の沈線、LR 横位 上部に斜位・弧状の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	10VR7/4 にぶい黃褐色	10VR7/4 にぶい黃褐色		
22. 中央表土	口縁部～胴部	口縁部：撚紐の押縫 脱部：LR 横位 の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.5	10VR5/3 にぶい黃褐色	10VR5/2 灰黃褐色		
23. 表土	口縁部～胴部	口縁部：撚紐の押縫 脱部：網目状渦巻文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	10VR5/4 にぶい黃褐色	10VR7/3 にぶい黃褐色	外表面化物付着	
24. 表土	深鉢 胴部	網目状渦巻文	無密 砂粒含む 網縫	良好	7.0	7.5VR6/6 褐色	10VR6/4 にぶい黃褐色	10VR7/3 にぶい黃褐色	
25. 表土	深鉢 胴部	網目状渦巻文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.5	10VR6/4 にぶい黃褐色	10VR6/4 にぶい黃褐色	外表面化物付着	
26. 表土	深鉢 胴部	網目状渦巻文	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	10VR5/4 にぶい黃褐色	10VR7/3 にぶい黃褐色	外表面化物付着 一部剥離	
27. 表土	深鉢 胴部	LR 極位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	10VR5/1 褐色	10VR5/6 明褐色	輪積み底	
28. 中央表土	深鉢 胴部	LR 横位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	6.0	7.5VR6/6 褐色	7.5VR4/1 褐色		
29. 表土	深鉢 胴部	LR 横位	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.5	7.5VR6/6 褐色	10VR6/6 明褐色		
30. 表土	深鉢 胴部	LR 極位	無密 砂粒含む	良好	5.5	10VR6/3 にぶい黃褐色	10VR5/2 灰黃褐色		
31. 表土	錐形土製品	無文	無密 砂粒含む	良好	4.5	10VR6/4 にぶい黃褐色	10VR6/4 にぶい黃褐色	鋸部分は欠損	

Cトレンチ (第24・25図、写真図版17)

1. SX24	深鉢か 胴部	上2段の3本一単位の横位の沈線間に弧状の沈線	無密 砂織・砂 粒含む	良好	5.0	10VR4/1 褐色	10VR5/3 にぶい黃褐色		
2. SX24	深鉢 胴部	LR 極位、沈線で方形区画文、崩落	無密 砂粒含む	良好	7.0	10VR4/1 褐色	10VR4/2 灰黃褐色	輪積み底	

第3表 土器・土製品観察表(2)

番号	検出位置	器種・ 部位	文様等	断土	遺存 状況	器 庫 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
3	S324	深鉢 口縁部	3本の横位の沈継、L型横位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.5	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪縞み底
4	S324	深鉢 口縁部	2本の横位・曲線的底縫、L無縫? 縫文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	5.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 にぶい黄褐色	表面炭化物付着
5	S324	深鉢 胴部	3本の横位の沈継。3本の山状の沈継 L無 縫横位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	表面炭化物付着
6	S324	深鉢 胴部	4本の横位・斜位の沈継、L型横位	堅継 砂継・砂 粒含む	6.0	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 にぶい黄褐色	表面炭化物付着	
7	S324	深鉢 胴部	3本の横位の沈継、縦縫の弧状の沈継 L型 横位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	5.5	7.5R8/6 暗褐色	7.5R8/6 明黄褐色	表面炭化物付着
8	S324	深鉢 口縁部～胴部	網目状燃系	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい暗褐色	10YR6/6 暗褐色	輪縞み底
9	S324	深鉢 胴部	燃系文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	6.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	表面炭化物付着
10	S324	深鉢 胴部	網目状燃系文	堅継 砂粒含む	良好	7.0	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/3 表面炭化物付着	表面炭化物付着
11	S324	深鉢 胴部	L無縫横位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.0	9YR5/6 明黄褐色	7.5R8/4 にぶい暗褐色	表面炭化物付着
12	S325	深鉢か 口縁部	横位に並行する2本の沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	表面炭化物付着
13	S325	深鉢の底縫		堅継 砂粒含む	良好	6.5	7.5R8/6 暗褐色	10YR6/6 黄褐色	表面炭化物付着
14	南側表土	口縫部に並行する2本の沈継、3本の縦位の沈 継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	5.0	7.5R8/6 明黄褐色	7.5R8/4 にぶい暗褐色	表面炭化物付着	
15	中央表土	3本一帯位の横位に連続する弧縫	堅継 砂粒含む	良好	5.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	表面炭化物付着	
16	表土	3本一帯位の曲線的沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	10.0	10YR6/6 明黄褐色	7.5R8/6 暗褐色	表面炭化物付着	
17	表土	3本の横位の沈継、6本の斜位の沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	5.0	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい暗褐色	表面炭化物付着	
18	表土	逆S字状の2本の沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	5.0	7.5R8/6 暗褐色	7.5R8/6 暗褐色	表面炭化物付着	
19	表土	3ないし4本一帯位の横位の沈継間に斜位の 沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	4.5	7.5R8/6 暗褐色	7.5R8/6 暗褐色	表面炭化物付着	
20	南側表土	逆S位、左右斜方への2本の沈継による区 画 2段の渦巻き状沈継文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	表面炭化物付着	
21	表土	逆S位、2本の斜位の沈継と曲線的な沈継	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	表面炭化物付着	
22	表土	口縁部～胴部	網目：LR 縱縫、重円状の沈継	堅継 砂粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	表面炭化物付着
23	表土	口縫部：沈継、LR 横縫 口縁部：燃系の押縫	堅継 砂粒含む	良好	5.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい暗褐色	表面炭化物付着	
24	南側表土	2本、3本一帯位の弧状の沈継、L無縫横位・斜 位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	表面炭化物付着	
25	南側表土	口縫部：縦縫、2条の燃系の押縫	堅継 砂粒含む	良好	9.0	7.5R8/6 暗褐色	10YR6/6 明黄褐色	表面炭化物付着	
26	南側表土	燃系の押縫 LR 縱縫	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	補修孔	
27	表土	外面：L無縫横位・斜位 口縫部外縫部に燃系 内縫：燃系に開縫で押縫	堅継 砂粒含む	良好	7.5	7.5R8/4 にぶい暗褐色	7.5R8/4 にぶい暗褐色	表面炭化物付着 輪縞み底	
28	表土	逆S位：燃系の押縫 脱縫：L無縫縦位・斜 位	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	表面・底剥離 輪縞み底	
29	北側表土	口縫部～胴部	網目状燃系文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	輪縞み底
30	北側表土	深鉢 口縁部	燃系文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	6.0	7.5R8/6 暗褐色	7.5R8/6 暗褐色	表面ガジリ痕
31	表土	口縫部：折り返し口縫 LR 横縫・縦縫	堅継 砂継・砂 粒含む	やや 燃系	7.5	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	表面炭化物付着 表面・底剥離	
32	南側表土	LR 縱縫	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	14.0	7.5R8/6 暗褐色	7.5R8/8 明黄褐色	近面に木葉痕	
33	中央表土	円盤状土製品	網目状燃系文	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	7.5	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	底部の可塑性あり
34	表土	不明土製品	堅継 砂継・砂 粒含む	良好	8.0	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	底部の可塑性あり	

Dトレント (第 26・27 図、写真図版 18)

第3表 土器・土製品観察表 (3)

番号	検出位置	器種・部位	文様等	新土	遺存状況	器厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
3	SX33	深鉢か 鉢部	2本の横位の次線。4本の斜位の次線 L無 横位・斜位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10185/2 灰黄褐色 にぶい黃褐色	10185/3 にぶい黃褐色	
4	SX33	深鉢 口縁部	撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	5305/6 明黄褐色	5305/4 にぶい黃褐色	
5	SX33	深鉢 鉢部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10187/6 明黄褐色	10187/4 にぶい黃褐色	外面焼化物付着
6	SX33	深鉢 口縁部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10186/4 にぶい黃褐色	10187/4 にぶい黃褐色	
7	SX33	深鉢 鉢部	L無横位・斜位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10187/4 にぶい黃褐色	10187/4 にぶい黃褐色	
8	SX34	深鉢 口縁部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10187/2 にぶい黃褐色	10187/3 にぶい黃褐色	
9	SX37	深鉢か 鉢部	2本の横位の沈線	壓縮 砂粒含む	良好	9.0	10187/4 にぶい黃褐色	10186/6 明黄褐色	
10	南側表土	深鉢か 鉢部	2本の横位の沈線	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.5	5106/8 褐色	5106/6 褐色	
11	南側表土	深鉢 鉢部	2本の横位の沈線。L無撲示文。一部断続 横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	やや 脂質	6.5	10186/6 明黄褐色	10186/4 にぶい黃褐色	
12	表土	深鉢か 口縁部	縦やかな波状・外縁:L無横位、3本の沈線 内面:沈線、LR横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.5	10186/6 明黄褐色	10186/6 明黄褐色	
13	中先表土	深鉢 口縁部	熱子目状沈線文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.3185/6 明黄褐色	10187/4 にぶい黃褐色	外面焼化物付着
14	中先表土	深鉢か 口縁部～鉢部	縦やかな波状 横部:HL撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10185/3 にぶい黃褐色	10185/3 にぶい黃褐色	
15	南側表土	深鉢か 鉢部	縦やかな波状、皮膚底面下に鋸歯の瘤を有す。 燃焼の跡 L無斜位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.5	7.3185/3 にぶい褐色	7.3186/6 褐色	
16	表土	深鉢 口縁部～鉢部	外縁:野口高し状に隆 L無横位・斑位。2本の 横位の沈線 内面:口縁部にLR横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10186/6 明黄褐色	10185/3 にぶい黃褐色	
17	表土	深鉢 鉢部	撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.3185/4 にぶい褐色	10187/6 明黄褐色	
18	中先表土	深鉢 鉢部	LR横位・斜位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	7.3186/6 褐色	5106/6 褐色	外面焼化物付着
19	中先表土	深鉢 鉢部	LR横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	9.0	7.3186/6 褐色	5106/6 褐色	外面焼化物付着 輪積み底
20	表土	口縁部～鉢部	口縁部:燃焼の跡後 鉢部: HL 横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10186/6 明黄褐色	10187/6 明黄褐色	
21	表土	深鉢 口縁部～鉢部	口縁部:燃焼の跡後 鉢部: LR 横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.5	10186/4 にぶい黃褐色	10186/6 明黄褐色	
22	北側表土	深鉢 口縁部～鉢部	燃焼の跡後 LR 横位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.3186/6 褐色	7.3187/6 褐色	
23	表土	深鉢 鉢部	撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	8.0	10186/6 明黄褐色	10185/4 にぶい黃褐色	
24	表土	深鉢 口縁部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10185/4 にぶい黃褐色	10185/4 にぶい黃褐色	輪積み底
25	北側表土	深鉢 鉢部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	5.5	10185/3 にぶい黃褐色	10187/4 にぶい黃褐色	
トレント外 (第 29 図、写真図版 19 上)									
1	SX39 + トレント 鉢部	2 本の横位の次線による上端の凹凸 横位:L 外 鉢部	3本の波状の沈線。L無横位	壓縮 砂粒含む	良好	5.0	10185/2 にぶい黃褐色	10185/2 にぶい黃褐色	
2	SX39 + トレント 外	深鉢 口縁部	網目状撲示文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	10186/6 明黄褐色	10186/6 明黄褐色	内面一部剥離
その他 調査地内 (第 29 図、写真図版 19 下)									
1	調査地内	深鉢か 鉢部	LR 横位、沈線	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	5.0	10187/4 にぶい黃褐色	10187/4 にぶい黃褐色	
2	調査地内	深鉢か 鉢部	沈線、直 横位・斜位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.3186/6 褐色	10186/4 にぶい黃褐色	輪積み底
3	調査地内	深鉢か 鉢部	沈線、LR 横位・斑位	壓縮 砂粒含む	良好	6.5	7.3186/6 褐色	10186/4 にぶい黃褐色	
4	調査地内	深鉢 鉢部	横位・曲線的な沈線。LR 横位・斑位	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.3186/6 褐色	10186/4 にぶい黃褐色	外面焼化物付着
5	調査地内	深鉢 鉢部	沈線、LR 横位	壓縮 砂粒含む	良好	6.5	10185/3 にぶい黃褐色	10185/3 にぶい黃褐色	年代測定試料
6	調査地内	深鉢 鉢部	横走する 2 本の低位の降線 横位に連続する 窓型の沈線文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10186/6 明黄褐色	10187/3 にぶい黃褐色	
7	調査地内	深鉢 鉢部	重層的な窓型の沈線文 横位に連続する重 複窓文	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	10187/6 明黄褐色	10187/4 にぶい黃褐色	
8	調査地内	深鉢 鉢部	3 本一単位の横位の沈線間に向する弧線文	壓縮 砂粒含む	良好	7.0	10185/2 灰黄褐色	10185/4 にぶい黃褐色	
9	調査地内	深鉢 鉢部	3 本の横位の沈線、垂下する蛇行沈線	壓縮 砂礫・砂 粒含む	良好	6.0	7.3186/6 褐色	7.3186/6 褐色	
10	調査地内	深鉢 口縁部～鉢部	口縁部・鉢部: LR 横位	壓縮 砂粒含む	良好	7.0	10186/4 にぶい黃褐色	10186/3 にぶい黃褐色	

第3表 土器・土製品観察表 (4)

番号	検出位置	器種 部位	文様等	粘土	遺存 状況	器 厚 (mm)	色調		備考
							外面	内面	
11	調査地内	深鉢 口縁部～脚部	網目：熱帯文	堅密 砂礫・砂 粒含む	良好	7.0	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	
12	調査地内	深鉢 口縁部	口縁に並行する2本の沈線	堅密 砂粒含む	良好	10.0	10YR6/3 に5Y5/5 黄褐色	10YR6/2 に5Y5/5 黄褐色	
13	調査地内	深鉢 口縁部	折り返し口縁	堅密 砂粒含む	良好	7.0	7.5YR6/4 に5Y5/5 黄褐色	7.5YR6/4 に5Y5/5 黄褐色	
14	調査地内	ミニチュア 土器・底	無文	堅密 砂礫・砂 粒含む	良好	4.5	7.5YR6/6 褐色	-	
15	調査地内	ミニチュア 土器・底	無文	堅密 砂粒含む	良好	3.0	7.5YR6/6 褐色	-	
16	調査地内	土製品	車に円形刻突文を五角形に配置。中心の円形 刻突文と各側突文とを結ぶ沈線	堅密 砂礫・砂 粒含む	良好	22.0	10YR7/4 に5Y5/5 黄褐色	10YR7/4 に5Y5/5 黄褐色	キノコ形土製品 K12 スタンプ形土製品 輪は火鉢

第3表 土器・土製品観察表（5）

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
A レンチ (写真図版 20 上)								
1	表土	複形石器	チャート	39.1	46.6	16.4	27.6	一対の側面縫打痕がみられる。側縫は二次的剥離が加えられる。被熱変化がみられる。
2	表土	磨製石斧	砂岩	116.1	52.2	41.9	369.0	一部に面的縫打痕がみられる。剥離により刃部を作出す。
3	表土	磨製石斧	磁灰岩	71.5	46.6	26.4	129.0	側面縫打により成形される。全面に至り縫打痕が残る。
4	表土	磨製石斧	磁灰岩	82.7	55.3	45.5	293.1	側面縫打により成形する。左側面は特殊磨石の縫打痕にも見えるが、相対する右側に縫打による成形痕が認められるため、磨製石斧製作過程と考えられる。
5	表土	磨製石斧	磁灰岩	85.0	61.8	34.2	274.4	側面縫打により成形する。ほぼ全面に至り縫打痕が残る。
6	表土	磨製石斧	磁灰岩	63.6	48.4	26.4	126.4	側面縫打により成形する。全面に縫打痕が残る。
7	表土	磨製石斧	輝石安山岩	72.9	42.0	31.2	132.4	表面は刃部分を除く全面に縫打痕が残る。
8	表土	磨製石斧	重質安山岩	64.3	55.6	35.3	184.8	全面に縫打痕が残る。
9	表土	磨製石斧	磁灰岩	65.6	44.8	29.8	130.0	側縫は剥離を伴う強い縫打と多面体縫打で一対をなす(両側縫打)。表面の剥離面にやや弧的な縫打がみられる。
10	中央表土	打製石斧	砂岩	154.0	73.3	42.3	584.5	表面に研磨面がみられる。両側縫は台石とハンマーの側を入れ替えた両面剥離。磨製石斧製作過程か。
11	表土	鐵石	硬質砂岩	84.2	60.1	36.5	313.0	下端に多面体縫打がみられる。その他の辺に剥離を伴う強い縫打がみられる。
12	南側表土	鐵石	重質安山岩	102.8	92.8	44.3	626.5	底面の一端、側面の一部に規則的な縫打痕がみられる。
13	表土	鐵石	硬質砂岩	46.2	45.3	37.8	139.1	表面の一端を除く全面に亘って多面体縫打。
14	表土	鐵石	硬質砂岩	49.6	41.9	11.9	39.1	両端部に多面体縫打。
15	表土	鐵石	硬質砂岩	61.8	62.4	35.3	269.9	側縫の一部を除くほぼ全面に至り縫打痕がみられる。主体は上下両端で多面体縫打。
16	表土	鐵石	硬質砂岩	54.0	63.4	35.6	146.2	おもに下端から側縫にかけての多面体縫打。破損後対応辺に縫打が加えられる(縫合打)。
17	表土	鐵石	硬質砂岩	86.8	87.1	33.8	385.5	各端部に剥離を伴う強い縫打痕がみられる。
18	表土	鐵石	ホルンフェルス	81.0	58.5	39.0	343.5	両端部多面体縫打。
19	SX1	磨石	輝石安山岩	105.4	67.3	42.4	156.0	表面に顯著な研磨面がみられる。被熱変化がみられる。
20	レンチ内	磨石	輝石安山岩	141.0	97.1	65.2	1,287.5	表面に顯著な研磨面がみられる。被熱変化がみられる。
21	南側表土	磨石	硬質砂岩	73.2	54.6	35.3	201.5	表面に研磨面。それぞれの頂部に弱い縫打痕がみられる。
22	表土	磨石	輝石安山岩	52.1	40.6	62.4	86.4	表面に研磨がみられる。
23	レンチ内	磨器	砂岩	109.8	50.3	32.5	257.3	下端から両側縫にかけて剥離により成形される。一側縫は円刃状である。打製石斧あるいは磨製石斧の製作過程か。
24	中央表土	磨器	砂岩	110.1	52.4	49.4	319.0	下端を中心に側縫及び上端の一部は剥離により成形される。磨製石斧製作過程か。
25	表土	石刀	輝石安山岩	165.7	88.0	62.1	1,410.0	画面に研磨が認められる。表面は中央に向かってやや傾む。板状をなす。基部は断面四角形状に成形される。基部周辺の破片と考えられる。
26	表土	石刀	板状岩	93.4	38.8	11.9	64.8	刃部の一端は角の峰が成形される。一側縫は片刃の刃部が成形される。基部周辺は断面四角形状に成形される。
B レンチ (写真図版 20 下)								
27	表土	磨製石斧	輝石安山岩	113.4	46.1	25.5	192.0	底面式に弱い舟底長方形の断面形状をなす。基部は丸る(乳棒状に近い)。刃部は剥離による再生がみられる。
28	表土	磨製石斧	磁灰岩	75.9	41.6	30.0	132.4	ほぼ全面に至り縫打痕が残る。乳棒状。
29	レンチ内	鐵石	硬質砂岩	81.3	74.8	28.5	328.5	辺縫に部分的な縫打痕。それぞれの瓶底の頻度は少ない(3箇所)。
30	SX15	鐵石	硬質砂岩	75.8	67.4	42.1	400.5	両端縫打。一端に多面体縫打。相対する一端の一部に縫打。
31	表土	鐵石	硬質砂岩	53.5	49.8	36.2	162.6	表面中央を除く全面に亘る多面体縫打(縫打複数あり)。
32	SX15	磨石	砂岩	109.1	87.1	47.3	662.5	表面に顯著な研磨面がみられる。
33	レンチ内	磨器	重質安山岩	112.1	69.3	42.9	423.0	剥離により縫辺が成形される。剥離を伴う磨打による縫辺成形が認められる。打製石斧あるいは磨製石斧の製作過程か。

第4表 石器・石製品観察表(1)

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
Cトレンチ (写真図版 21 上)								
34	表土	複形石器	チャート	34.7	36.2	12.5	15.7	複数の対をなす複雑彫打痕がみられる。
35	南側表土	磨製石斧	矽灰岩	64.2	32.3	18.2	42.9	右側縁に剥離を伴う強い敲打痕がみられる。小型磨製石斧。縁齐に近い。
36	表土	磨製石斧	矽灰岩	67.5	48.3	25.4	122.4	表裏面に原縁面残す。側面は敲打により作成する。
37	表土	磨製石斧	矽灰岩	62.5	37.4	26.5	99.1	表裏面に一部研磨された原縁面残す。側面彫打による作成。
38	S324	磨製石斧	砂岩	56.1	42.0	25.2	94.0	表面は彫打により成形する。側面を剥離を伴う強い敲打により成形する。
39	S324	磨製石斧	砂岩	60.2	47.8	24.7	129.5	表面凹部、側面彫打により成形する。
40	S325	打製石斧	矽灰岩	121.4	72.3	55.6	626.0	甲高の形状である。裏面に原縁面残す。側面彫打により作成される。磨製石斧木製柄の可能性あり。
41	表土	打製石斧	矽灰岩	110.5	92.0	31.1	243.2	表面の一部（一部研磨）及び裏面全体に原縁面を残す。裏面側脚から基部を削除して周縁に剥離される。
42	S325	鐵石	硬質砂岩	96.0	75.9	40.5	450.0	両端部に剥離を伴う強い敲打痕がみられる。
43	南側表土	鐵石	硬質砂岩	60.9	56.4	40.9	274.3	表裏面に原縁面残す。周縁に多面体彫打。
44	北側表土	鐵石	輝石安山岩	64.3	35.3	31.3	92.2	一面を除く全面に多面体彫打（模様は認められない）。
45	表土	鐵石	硬質砂岩	74.6	73.0	40.1	375.0	端部に敲打痕がみられる。
46	表土	鐵石	硬質砂岩	29.1	52.1	16.9	31.6	両端部に多面体彫打。
47	S325	磨石	輝石安山岩	106.9	83.3	46.8	666.0	側面に彫打痕、表面に顯著な研磨痕（研磨に先行する彫打あり）がみられる。
48	表土	磨石	輝石安山岩	117.4	88.5	59.8	995.0	表面に顯著な研磨痕（研磨に先行する彫打あり）がみられる。周縁は穂（彫打）による。
49	南側表土	磨石	輝石安山岩	91.9	90.1	43.9	521.0	表面に研磨紙（研磨に先行する彫打あり）がみられる。周縁は部分的な研磨による。
50	表土	磨石	輝石安山岩	112.2	74.7	48.6	668.0	表面に顯著な研磨痕がみられる。側面は緩く弱い彫打、一部研磨で成形される。下端に敲打痕がみられる。
Dトレンチ (写真図版 21 下・22 上左)								
51	表土	石核	研磨頁岩	49.8	46.9	24.6	58.2	原縁面面打、楔状をなす。
52	S325	磨製石斧	矽灰岩	120.5	63.8	64.3	611.5	側脚及び側縁の剥離を伴う強い彫打等で甲高の形状に成形したのち全面を彫打で成形する。
53	南側表土	磨製石斧	矽灰岩	65.8	43.9	32.2	100.4	側部を削離を伴う彫打。剥離縁を中心に全般的彫打により成形される。
54	表土	磨製石斧	輝石安山岩	69.5	50.6	37.6	169.3	表面面に強い彫打、側面の集中的な彫打により成形される。甲高の形状である。乳棒形。
55	S324	磨製石斧	矽灰岩	93.6	49.6	42.9	237.67	表裏中央の一部を除く全面を彫打により成形する。
56	表土	磨製石斧	重質安山岩	67.6	58.9	35.4	204.6	表面に研磨された原縁面を残す。側面彫打により成形する。表面に彫打痕が残る。
57	表土	磨製石斧	重質安山岩	103.9	63.8	34.3	376.5	裏面全面、両側面に彫打による成形痕がみられる。
58	表土	磨製石斧	重質安山岩	80.2	65.1	32.7	230.5	側縁は右側縁が多面的彫打、左側縁が剥離を伴う彫打による（両側剥離とも考えられる）。
59	表土	打製石斧	砂岩	119.3	50.7	41.1	304.5	側縁から表面平面上に原縁面を残す。縁辺の成形はおもに急角度剥離により、その後に敲打（両側彫打）が加えられる。甲高の形状となる。
60	表土	打製石斧	粘板岩	149.1	49.3	16.3	162.6	素材を斜めに削えた両側彫打が考えられる。
61	表土	打製石斧	重質安山岩	118.5	70.2	37.7	332.0	表面のごく一部に研磨面と裏面に一部研磨された原縁面を広く残す。縁辺の成形はおもに急角度剥離により、甲高の形状となる。
62	中央表土	打製石斧	砂岩	96.9	59.5	37.1	184.3	側縁と潰れを伴う強い彫打で一対をなす（両側彫打）。
63	S322	鐵石	硬質砂岩	85.8	97.4	51.3	656.6	端部及び破壊面の後にに対する彫打が加えられる。
64	表土	鐵石	輝石安山岩	139.0	68.6	48.4	581.5	上面に剥離を伴う強い彫打。剥離縁が研磨される。
65	表土	鐵石	砂岩	92.9	54.9	52.8	391.5	小形の縁の上平に顕著的な彫打痕がみられる。
66	表土	鐵石	ガラス質安山岩	104.1	87.5	47.0	517.5	上面に剥離を伴う強い彫打が加えられる。

第4表 石器・石製品観察表(2)

番号	検出位置	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
67	SX35	鐵石	硬質砂岩	52.6	36.8	16.3	40.5	端部敲打の鐵石破片と考えられる。
68	表土	鐵石	硬質砂岩	47.0	42.9	47.1	125.1	角を中心に集中した敲打。縁辺部に敷きな鐵打が加えられる。
69	表土	鐵石	頁岩	49.5	58.4	20.5	84.6	F字剥離を伴う鐵石。鐵打面の研磨あるいは弱く硬いストロークの鐵打が加えられる。
70	表土	鐵石	硬質砂岩	45.0	41.2	16.9	36.6	端部に鐵打が加えられる(剥離を伴う)。
71	表土	鐵石	硬質砂岩	62.1	61.0	42.0	206.5	角を中心に集中した鐵打。縁辺部に剥離を伴うやや強い鐵打が加えられる。
72	表土	磨石	輝石安山岩	112.1	83.2	44.5	636.0	面的鐵打、研磨。その後上下面に鐵打。
73	中央表土	砂岩	砂岩	92.3	64.2	21.4	169.4	扁平圓錐形。一線刃に連續的な剥離を加えて側面状の直線的な縁辺が形成される。
74	表土	石刀	輝石安山岩	154.3	83.4	95.2	1,290.4	断面が甲高二角形をなす。うち2辺の縁部に剥離状の痕跡あり。被擦部分がみられる。
75	表土	石刀	粘板岩	50.5	25.7	5.7	11.3	石刀の刃部破片。側縁は丸みの峰が成形される。側縫は片刃の刃部が成形される。
トレンチ外 (写真図版 22 上右)								
76	SX39・トレンチ外	磨製石斧	輝石安山岩	51.6	46.3	23.8	82.8	側面敲打により成形される。裏面に鐵打痕が残る。
その他 調査地内 (写真図版 22 中)								
77	調査地内	橢形石器	頁岩	41.5	51.7	10.2	26.9	広い剥離を作り鐵打と細かい剥離を生じる鐵打で一对をなす。
78	調査地内	石器未製品	硬質頁岩	23.0	39.4	8.0	3.2	裏面に原礦面及び鉈理面を残す橢形石器を調査する。おもに表面側に側縫に亘る一次的剥離を加え、滴状に成形される。
79	調査地内	磨製石斧	磁灰岩	106.5	56.0	22.6	213.5	側縫は剥離により作成する。側縫は剥離を作り強い鐵打のち面的鐵打。
80	調査地内	磨製石斧	磁灰岩	114.9	61.5	39.7	412.0	側面敲打により成形される。裏面に緩く弱い鐵打痕が残る。
81	調査地内	磨製石斧	磁灰岩	64.5	56.7	27.3	154.5	側面敲打により成形される。裏面に鐵打痕が残る(刃削除)。
82	調査地内	打製石斧	磁灰岩	110.3	61.1	45.8	412.0	側縫とともに剥離を作り強い鐵打瓶(両側面鐵打)がみられる。右:ハンマー 左:台石。
83	調査地内	打製石斧	磁灰岩	57.3	53.3	27.4	91.8	両側縫とともに剥離を作り強い鐵打瓶(両側面鐵打)がみられる。右:ハンマー 左:台石。
84	調査地内	打製石斧	磁灰岩	75.4	60.3	38.2	254.1	裏面の一部、裏面中央に一部研磨された原礦面を残す。側縫は面的鐵打と剥離を作り強い鐵打で一对をなす(裏面鐵打)。右:ハンマー 左:台石。
85	調査地内	打製石斧	磁灰岩	91.2	56.8	43.0	287.3	裏面に一面研磨された原礦面を残す。側縫は剥離を作り強い鐵打と多面側面鐵打で一对をなす(両側面鐵打と考えられる)。
86	調査地内	打製石斧	斐賀安山岩	65.2	57.0	24.0	129.4	刃縫及び側縫の成形は剥離による。よくに右側縫は平坦な原礦面からの横正方向剥離による。
87	調査地内	磨石	花崗岩	113.7	97.1	63.8	1,020.0	裏面に顕著な研磨。ほぼ全面に亘る弱い研磨がみられる。表面の一端に凹み。
表面探集 (写真図版 22 下)								
88	表面探集	加工瓶を有する 縫	花崗閃綠岩	155.0	215.0	160.0	5,950.0	割り瓶をもつ。右縫が

第4表 石器・石製品観察表 (3)

VII. 南戸類家Ⅱ遺跡の考古学的観察所見

盛岡大学名誉教授 熊谷常正

風力発電事業のため、洋野町教育委員会が試掘調査を実施している南戸類家Ⅱ遺跡で検出された配石と考えられる遺構に関し、現地確認を行った。本地点では、縄文時代後期の遺物と配石と考えられる遺構などが確認されており、その性格や意義に関し考察する。

まず、トレチ断面の土層を観察すると、表層近くにはにぶい黄橙色ないし黄褐色を呈する砂質土が堆積している。この下位には八戸火山灰に相当する土層が堆積していると思われ、これらはその風化堆積層と思われる。このような堆積状況は、北部三陸地域の高位海岸段丘面に多く見られるものである。

検出された石列(注1)は、表層直下の砂質土上面に形成され、また土器などの遺物もこの土層に包含されている。石列の周囲や土器などが集中して出土する場所には、やや黒味の強い土壤が広がっており、遺構の存在を示す可能性がある。

配石と考えられる遺構に関する構造は三例である(第6図)。まず、Cトレチ北端から10m付近で数基の配石と考えられる遺構を検出している(SX38ほか)。大まかにこれらはN-120°-Eほどの軸線上に並び、それを南東に延長するとBトレチ中間部周辺で検出された配石と考えられる遺構(SX16ほか)やAトレチまで続くと推定できる。全体では50mほどになろうか。これを1号石列と仮称する。また、Cトレチ南端から35m周辺のSX29とその西側に隣接して検出されたSX42-44は、単独あるいはふたつの礫からなるものだが、ほぼ東西に連なり、BトレチのSX20に関連すると想定できる。これを2号石列とする。さらにB・C両トレチ南端部付近で検出したSX31・45・46も列状の配列が想定でき、これを3号石列とする。

このうち1号石列北西部のSX38は、30~50cmほどの花崗岩のやや扁平な重角礫7~8個を用いて半円状に並べている。それに隣接して長軸1mほどの礫が横たわっている。これが立石に相当する可能性があるが、隣接するSX23、SX39では礫が円形に配置されるものの立石と見なせるような石は確認できない(第13図)。1号石列中間部にあるSX16は、おそらく円形に置かれた配石が二基重複していると思われるが、その一方に長軸1mを超す石が含まれ立石と思われる(第15図)。

これらは①円形配列をとる置石の存在、②立石の可能性のある大形の石をもつものがあること、③下部土坑の存在が想定でき、配石はその上部に造られていること、④海岸段丘上面には本来分布しない花崗岩の巨礫が用いられていること、⑤礫には被然の痕跡とみられる褐色部分が認められるものが含まれていること(第2表参照)、などの点を指摘できる。一方で、2号・3号石列のように単独あるいは構成礫が2・3個のものがあるなど、いくつかの形が併存している。いずれにしろこれらは人為的な活動により造営された遺構であることは疑いなく、土坑を有するものは配石墓壙となる可能性が高い。

土坑を伴う配石遺構が列状に連なる例は、北部三陸地域では田野畠村の館石野Ⅰ遺跡や同村菅原の和野新郷神社遺跡などが知られている。ただし個々の遺構での石配列には大きな違いがある。館石野Ⅰ遺跡では立石の裾に置石を巡らすよう配置し、置石の手前側と立石の背後との間に段差を設けるなどの特徴がある。館石野Ⅰ遺跡では、このような石列が二条あるいは三条あると思われ、長さも最長で70mを測る。また和野新郷神社遺跡では方形ないし梢円形に配列した石の内側に、十字形に石を置き、それらを連続して配置している。これらに比べると本遺跡例は平面的で配列も疎である。また、2・3号石列のように単独あるいは2・3個の石を連ね、特段の下部遺構を伴わない例として、洋野町の鹿塚浜Ⅰ遺跡がある。

次に検出された遺物を概観する。土器には原位置を保った状態で検出された例が複数あり、集中して検出される地点もある。また、破片も磨耗や風化痕跡がほとんど確認できないことから、この場が生活空間であったことには疑いない。検出された資料のすべてを確認してはいないが、土器は縄文後期前葉の十腰内式ないしはその

前後の段階が主体を占める。それ以外ではミニチュア土器も検出されている。石器には、石斧類・磨石・剥片類などが検出されている。石斧・磨石は在地産の石質を用いていると思われる。剥片類もチャート系石質が目立ち、海岸段丘構成礫層に含有される石質である。

このほか調査トレンチ断面などを観察した際、少数だがチャート類の小円礫が表層近くに散布していることを確認できた。同様の小円礫は洋野町の西平内Ⅰ遺跡でも環状列石・集石遺構周辺で多数検出されており、土坑への埋納事例もあった。本遺跡の小円礫が西平内Ⅰ遺跡と同義のものかは即断できないが、配石に用いている花崗岩の巨礫と同様に、海岸段丘表層の火山灰層には本来含まれないものであることから、やはり人為的な所産にかかるものと思われる。

以上のように、本調査地点には配石が列状に連なる遺構が三条想定でき、特に1号石列は確実な配石遺構が複数検出されており、間断はあるものの50m近くの規模を有する。これほどの長さのある石列遺構は、前述の田野畠村館石野Ⅰ遺跡などで知られているだけで希少な事例といえる。また、A・Bトレンチの南端付近、丘陵の斜面にかかる地点で遺物が集中することが確認できた。これは斜面に形成される遺物包含層とも考えられ、丘陵周囲で包含層の有無確認も必要になってくる。さらに、遺構には住居跡に相当する規模をもつものもあり、このような居住施設と配石遺構が併存する可能性のある遺跡は貴重である。

洋野町では西平内Ⅰ遺跡での大規模環状列石と群在する配石遺構が発見されて以来、町内各地で類似あるいは配石関連の遺跡発見が続いている。本遺跡もその一例に加えることができ、今後、他遺跡と立地や周辺景観との関わり、比較なども課題となるであろう。

(注1)今回の調査は試掘調査であり、不確定な部分もあることから列石とせず石列と記した。

VIII. 調査のまとめ

試掘調査の結果、多くの遺物とともに、掘り込みをもつ遺構のプランや配石遺構又は集石遺構の可能性のある多数の礫が検出された。

ハンドボーリング調査の結果では、検出されたトレーンチ内の礫のほか、丘陵上の多くの部分に礫の存在が確認された。配石遺構又は集石遺構と考えられる遺構は、検出されたよりもかなり広い範囲に分布していると考えられる。

町内では、西平内Ⅰ遺跡で環状列石が確認されている。今回の調査で検出された配石は散漫ではあるが直線状の分布をなすものと考えられ、検出された遺物は、同時期若しくは近接する時期のものと考えられる。また、立地は海岸線から10km近く内陸に入った丘陵上であり、西平内Ⅰ遺跡の環状列石とは傾向を異にする祭祀活動が行われたことも想定される。環状ではない列状の配石遺構の可能性があるが、弧状や直線状の配列となる列石は、田野畠村の館石野Ⅰ遺跡などでも検出されており、関連も注目するところである。

検出された縄文土器は、図示したように縄文時代後期前葉から中葉に相当し、十腰内Ⅰ式の前段階、十腰内Ⅰ・Ⅱ式土器が多く、遺跡の中心となる時期はこの段階であると考えられる。検出された石器は、磨製石斧の製作過程を示す石器未製品や剥片が多く検出された。本遺跡で、石器の製作が行われていた可能性を示すものと考えられる。また、鐸形土器製品、ミニチュア土器などの土製品や石刀といった祭祀的性格を考えられる遺物が検出されている。

なお、トレーンチ内の遺構確認面で検出した炭化物、調査地内で採集した土器外面付着炭化物試料は年代測定の結果、後期中葉の年代を示している。

以上のように、今回の試掘調査で、配石遺構、集石遺構とみられる遺構を含む貴重な遺跡であることが確認された。なお、本遺跡内での風力発電事業は中止され、開発は回避された。

＜文献＞

榎本剛治 2008 「十腰内Ⅰ式」『縄文縄文土器』 アム・プロモーション

工藤伸一・鈴木克彦 1998 「キノコ形土器について」『研究紀要』3 青森県埋蔵文化財調査センター

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団

2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

鈴木克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4-十腰内Ⅰ式と直前型式の研究-」

『縄文時代』9 縄文時代文化研究会

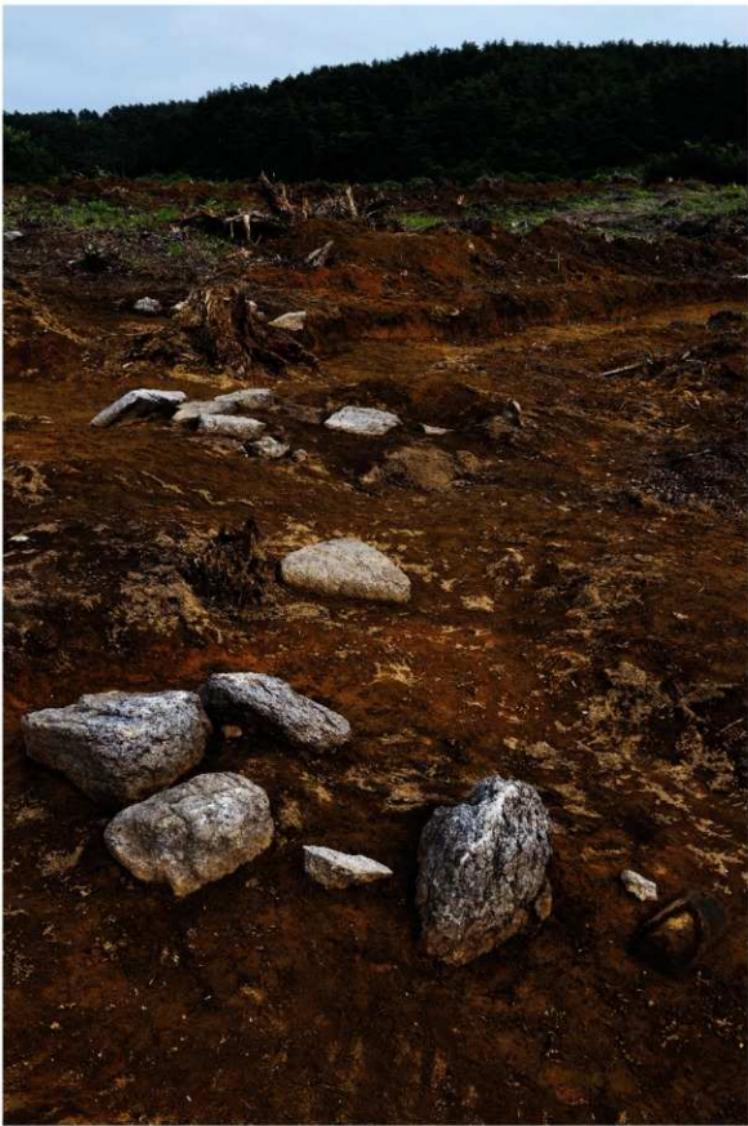
鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣

洋野町教育委員会 2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書-配石、集石遺構の地中確認調査-』

洋野町教育委員会 2020『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書-環状列石の確認に係るトレーンチ発掘調査-』

洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集

早稲田大学文学部考古学研究室 1992『館石野Ⅰ遺跡』 早稲田大学文学部考古学研究室



写真図版 1 SX23・38・39



SX16（南から）



SX16（東から）

写真図版2 SX16



SX23（西から）



SX23（南から）

写真図版3 SX23



SX23・38・39（南から）



SX38・39（南東から）

写真図版4 SX23・38・39



SX38 (北西から)



SX39 (南東から)

写真図版5 SX38・39



調査地遠景



調査地近景（南から）

写真図版6 調査地遠景・調査地近景



写真図版 7 トレンチ全景



A トレンチ（北から）



A トレンチ（南から）



B トレンチ（北から）



B トレンチ（南から）



C トレンチ（北から）



C トレンチ（南から）



D トレンチ（北から）

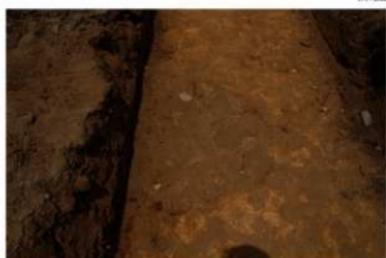


D トレンチ（南から）

写真図版8 トレンチ近景



深掘土層序



SX1 検出状況



SX1 石器検出状況



SX6 土器検出状況



確認面土器検出状況

写真図版9 深掘土層序・Aトレンチ



SX7 検出状況



SX7 炭化物検出状況



SX9 検出状況



SX15 検出状況



SX16 検出状況



SX16 検出状況



SX16 碓 No. 52 検出状況



SX16 碓 No. 52 検出状況

写真図版10 B トレンチ



SX16 検出状況



SX16 碓 No. 68 検出状況



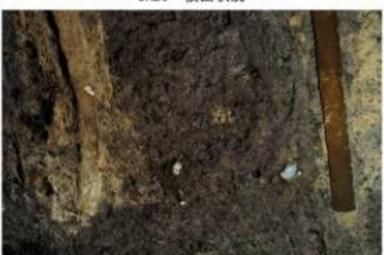
SX16 碓 No. 68 検出状況



SX20 検出状況



SX40 検出状況



SX45・46 検出状況



SX45 検出状況



SX46 検出状況

写真図版11 B トレンチ・トレンチ外



SX22 検出状況



SX23 検出状況



SX24 検出状況



SX25 検出状況



SX29 検出状況



SX30 土器検出状況



SX31 検出状況



SX38 検出状況

写真図版12 C トレンチ



SX38 検出状況



SX39 検出状況



SX39 検出状況



SX39 砧 No. 1 石棒検出状況



SX39 砧 No. 1 石棒検出状況



SX41 土器検出状況



SX42 検出状況



SX43 検出状況

写真図版13 Cトレンチ・トレンチ外



SX44 検出状況



SX29・42・43・44 検出状況



SX32 検出状況



SX33 検出状況



SX34 検出状況



SX35 検出状況



SX36 検出状況

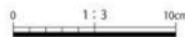


SX37 検出状況

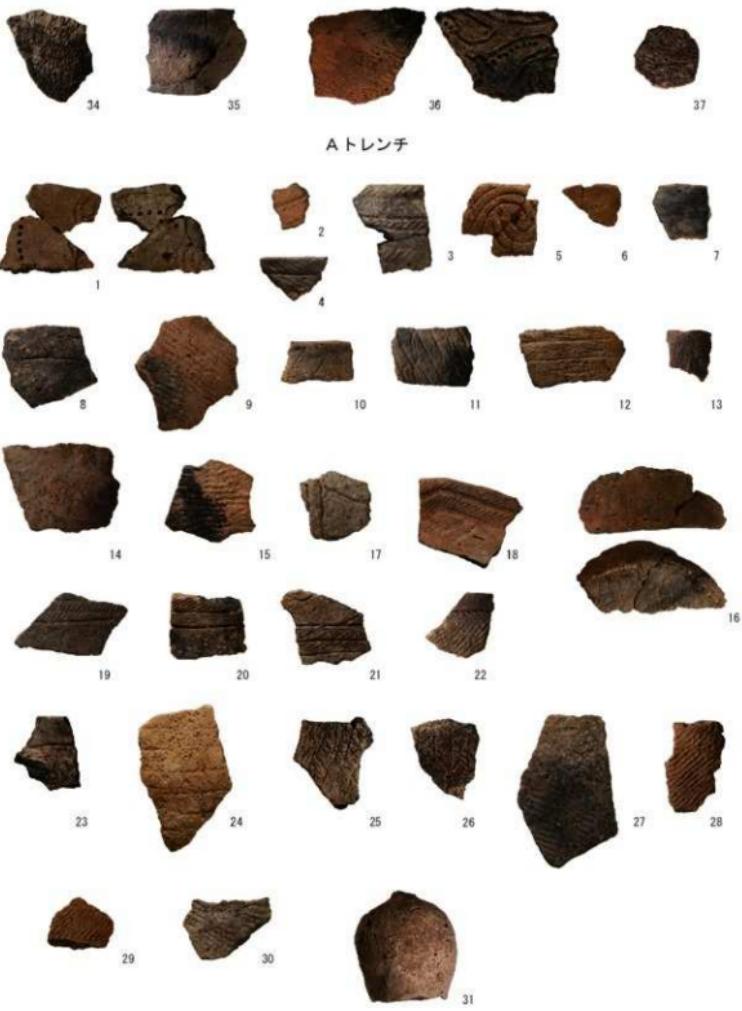
写真図版14 Cトレンチ・Dトレンチ・トレンチ外



A トレンチ



写真図版15 A トレンチ 検出土器



B トレンチ

0 1 : 3 10cm

写真図版16 A・B トレンチ 検出土器・土製品



C トレンチ

0 1 : 3 10cm

写真図版17 C トレンチ 検出土器・土製品



D トレンチ

写真図版18 D トレンチ 検出土器



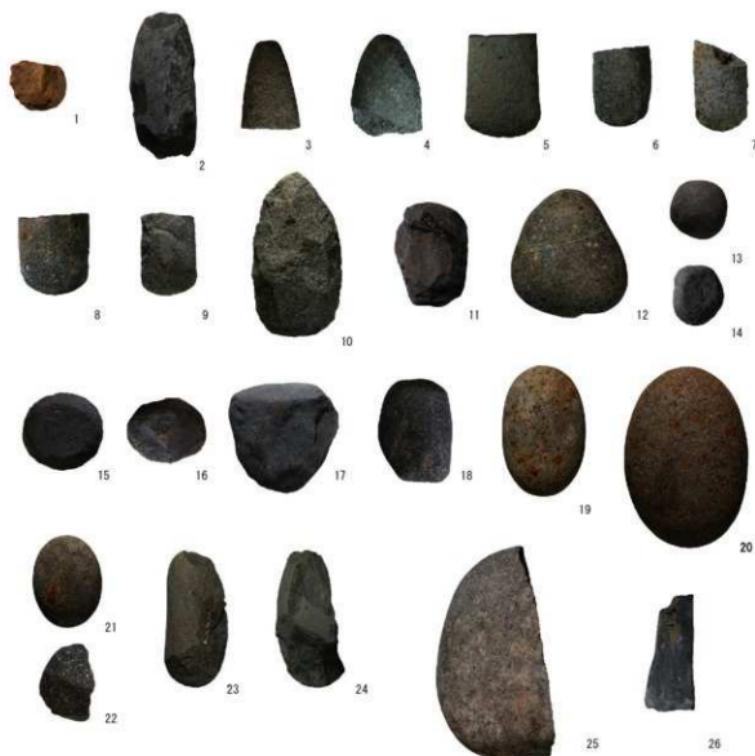


トレンチ外

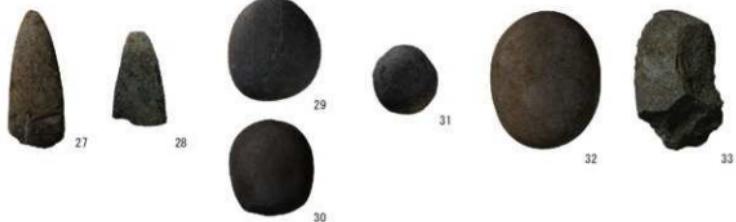


調査地内

写真図版19 トレンチ外・調査地内 検出土器・土製品



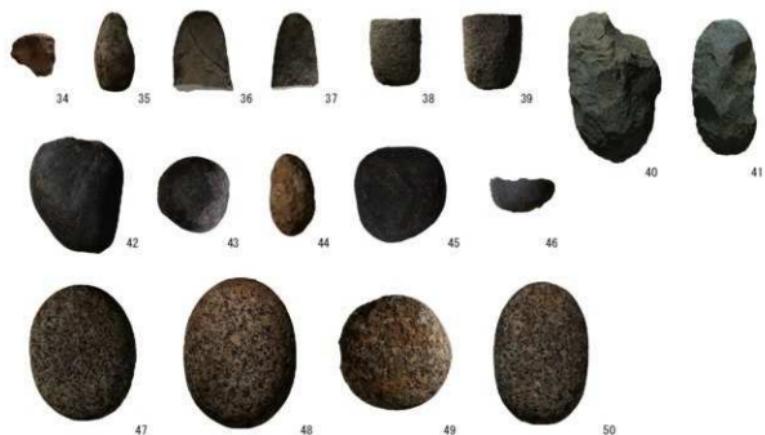
A トレンチ



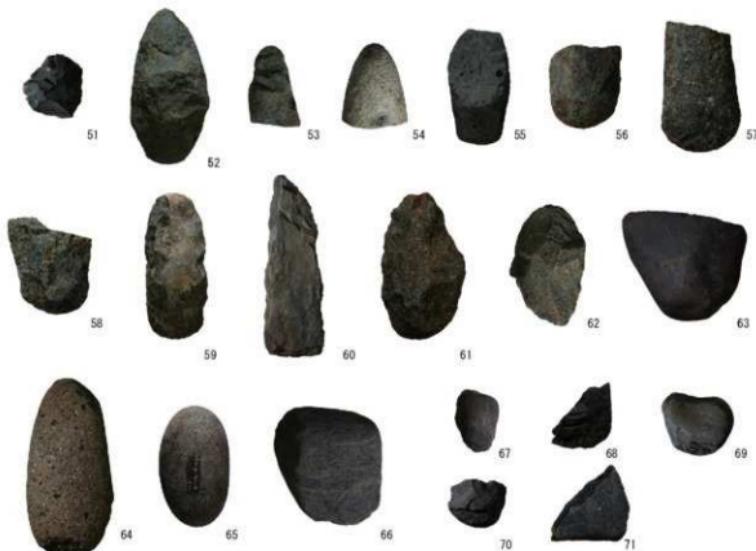
B トレンチ

0 1 : 4 20cm

写真図版20 A・B トレンチ 検出石器



C トレンチ



D トレンチ

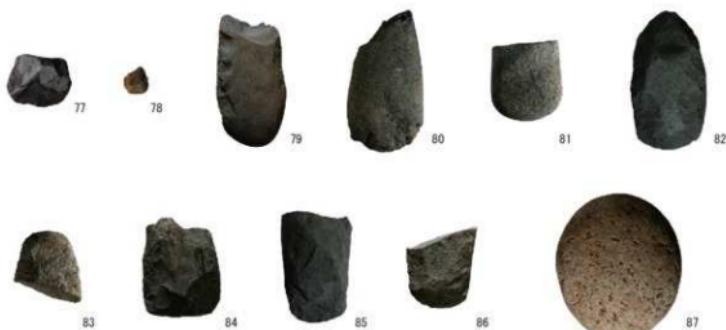


写真図版21 C・D トレンチ 検出石器



D トレンチ

トレンチ外



調査地内



表面採集



写真図版22 D トレンチ・トレンチ外・調査地内検出 表面採集石器

報告書抄録

ふりがな	みなみへるけにいせきしづつちょうさほうこくしょ
書名	南戸類家II遺跡試掘調査報告書
副書名	風力発電事業に伴う試掘調査
巻次	
シリーズ名	洋野町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	千田政博 稲村晃嗣 松丸信治 春日貴明 山中慶太
編集機関	洋野町教育委員会 株式会社四門
所在地	〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市 23-27 TEL 0194-65-2111
発行年月日	2023年3月12日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
みなみへるけにいせき 南戸類家II遺跡	いわてけんくのつぐん 岩手県九戸郡 ひののくにとうあいち 洋野町種市 だんじょうし 第8地割	03507	IF78-0108	40° 20' 59"	141° 41' 59"	20210628 ～ 20210805	625m ²	風力発電事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南戸類家II遺跡	散布地	縄文時代	配石遺構 集石遺構 埋設土器	調文土器 土 製 品 石 製 品	

洋野町埋蔵文化財調査報告書第15集

南戸類家II遺跡試掘調査報告書

風力発電事業に伴う試掘調査

印刷 令和5年3月1日

発行 令和5年3月6日

発行 洋野町教育委員会

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市23-27

TEL (0194) 65-2111

印刷 大東印刷株式会社

〒039-1103 青森県八戸市長苗代字内舟渡102-14

TEL (0178) 28-2348
